2004年度

講義計画

桃山学院大学

講　義　計　画

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
銀行論		秋学期集中	4単位	中野　瑞彦

［講義概要・学習目標］

銀行の基本的な機能を理解したうえで、経済社会における銀行の役割を歴史的かつ実践的に検証する。特に、1980年代以降の金融自由化と国際化の中で、日本の経済政策と金融政策がいかに変化してきたのか、日本の銀行はどのような行動をとってきたのか、更にはその経済的影響はどんなものであったのかを検証・考察する。

更に、バブル経済における経済政策と金融政策、銀行の行動を検証した上で、不良債権問題とその持つ意味について考察する。

また、金融市場におけるリスクの増大、自己責任原則の拡大に鑑み、金融におけるリスクとは何かについても学習する。

［講義計画］

以下の項目につき、銀行と金融機関を巡る問題点を探求する。

1. 銀行の仕組みと役割、金融政策における銀行機能の位置づけ
2. 金利規制下での実体経済と銀行機能の関係
3. 金融自由化と銀行経営の変化、公的金融との区別化
4. リスク・マネジメントとしての銀行の役割
5. バブル期の金融政策と銀行行動、及びその実体経済への影響
6. バブル崩壊後の金融危機問題
7. ゼロ成長下での銀行機能のあり方と銀行経営の展望

［成績評価の方法］

試験による

［教科書］

別途指示する

［参考文献］

鹿野　嘉昭「日本の金融制度」（東洋経済新報社）
津田　和夫「現代銀行論入門」（経済法令研究会）
堀内　昭義「日本経済と金融危機」（岩波書店）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
現代技術論		秋学期集中	4単位	辻　洋一郎

［講義概要・学習目標］

技術革新は、経済のみならず社会進歩の原動力です。特に最近は、製造業だけでなく、流通やサービス、物流や金融の現場でも新規技術がわからないと就職してから困ることが多いのが現状です。製造業に進む人でなくても技術を毛嫌いしていると損をすることが多いのです。逆に、『技術の考え方』を理解すれば、文科系でも理科系に負けない企画やビジネスチャンスをものにすることも可能です。この講義では、現代技術／技能のイメージを、具体例をもとに理解して戴き、恐怖心をなくすることを第一目標にしています。さらに細かい知識ではなく、『技術の成り立ちの構図』や『技術的考え方』を理解することを目指します。

［講義計画］

① 経済を支える技術革新
② 技術の歴史と進化
③ 技術と製品・マーケット
④ ヒット商品にみる技術
⑤ さまざまな技術/技能の具体例
⑥ 技術の進歩／技能の進化
⑦ 技術／製品の作られ方
⑧ 技術の限界
⑨ 技術と社会
⑩ 技術を取り巻く要因
⑪ 技術的考え方　（順序及び回数は不同）

［成績評価の方法］

学期末試験の成績、またはレポートによって評価します。

［教科書］

特に指定しません。

［参考文献］

講義中に都度推奨、指示します。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
都市政策論		通　期	4単位	松本　誠

［講義概要・学習目標］

「都市の爆発と再生～都市づくりの担い手と分権・自治の仕組み」

戦後日本の都市政策は、急激な都市への人口集中と都市構造の過密・高度化によって、国土の均衡を崩し、農山村の破壊をもたらし、都市の暮らしの環境悪化をもたらしてきた。それはまた、ハード面でもソフト面でも災害に弱い都市の構造をつくりだしてきた。

このような都市の“爆発”のなかで、住民・市民と自治体は、どのような政策を展開してきたのか。都市の再生へ、どのような対応をしてきたのか。

今日直面している分権型都市のあり方を踏まえて、２１世紀の都市と自治体のあり方を展望しながら、新しい都市政策を考える。同時に、住民・市民が新しい都市づくりに、どのように主体的な役割を果たすべきかについても、実践的な課題を探りたい。

［講義計画］

以下の項目について、講義を中心に状況認識と課題を把握することに努める。

1．都市公害と住民運動
2．革新自治体と都市政策
3．中山間地域の崩壊と“まちおこし”ブームの意味
4．戦後の市民・住民運動の系譜と展開
5．住民主体のまちづくりの試行
6．地方分権と住民自治
7．阪神・淡路大震災とサステイナブル・コミュニティー
8．参画・協働と新しい地方自治の模索

［成績評価の方法］

期末にレポートの提出を求めるほか、期中にも適宜アンケートやレポート等によって評価を補足する。

［教科書］

とくに指定しない。

［参考文献］

その都度、指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
比較経済体制論		春学期集中	4単位	上野　勝男

［講義概要・学習目標］

「ソ連（ロシア）の経済はどんなもの？」ときかれたら、少し勉強した諸君ならば次のように答えるだろうか。つまり、旧ソ連では企業活動の自由がなく、命令でがんじがらめに縛られ、消費者は選択の余地がなく、商品はいつも不足していた。こうした「社会主義計画経済」が行き詰まったためにソ連は崩壊して、いまでは「体制転換」という、「市場経済」＝資本主義のシステムへの移行がすすんでいるところだ、と。

たしかに「社会主義から資本主義への移行」というのはわかりやすい。でも、長引く不況、最悪の失業率、就職難、金融不安という状況にあるわたしたちの国日本も「市場経済」＝資本主義だと思うと、少し考え込んでしまいませんか。「はたしてこんな矛盾を抱えた資本主義が旧ソ連の転換の模範になるのか？」と。それに、「社会主義は、本来、資本主義の矛盾を克服した体制のはずなのに、なぜソ連はあんなふうに崩壊したのか」、「崩壊したのは社会主義だったからなのか」等々。この講義では、こうした疑問をじっくり考えることを目標として、①社会主義とは本来どのようなものか、②わたしたちの生きる現代資本主義にとって社会主義はどのような意味をもつのか、③旧ソ連の経済体制をどう考えるか、④ロシア・東欧諸国で進行する「体制転換」をどう考えるかをポイントにしてすすめます。

［講義計画］

序　論　「比較経済体制論」とは？
第Ⅰ部　社会主義とは何か？
　1．資本主義の本性とその矛盾
　2．社会主義的将来の本質と発展
　3．現代資本主義と民主主義
第Ⅱ部　ソ連経済史概説－「社会主義経済」だったのか？－
　4．十月革命からネップ（新経済政策）の試みへ
　5．ソ連型経済制度の成立
　6．ソ連経済の構造と矛盾
第Ⅲ部　「体制転換」の虚像と実態
　7．「体制転換」の十年
　8．未来はどこに

［成績評価の方法］

資料プリントを頻繁に配布します。また、講義への出席をとくに重視します。試験・レポートなどとあわせて、総合的に成績を評価します。講義の進め方・評価方法を知る上で、第1回目の講義は必ず出席してください。

［教科書］

使用しません。しかし、右に示した重要な参考文献とともに、随時その他の参考文献を指示します。

［参考文献］

E.T.ガイダール（上野ほか訳）『経済改革とヒエラルキー構造』（晃洋書房）
浅羽・瀧澤編著『世界経済の興亡200年』（東洋経済新報社）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
国際金融論		秋学期集中	4単位	一ノ瀬　篤

［講義概要・学習目標］

以下の順序及び内容で講義を進める。
（1）円高・円安
（2）固定相場制と変動相場制度
（3）国際収支
（4）為替相場
外為取引、為替相場変動、国際投資など国際金融に関する基本的知識を身につけることを目標とする。難しい理論は最小限にとどめ、関係業務に就いた際や日常生活で役立つように、制度や統計の見方など現実的な観点を大事にしたい。

［講義計画など］

ほぼ毎回、講義レジメを配布して、これに基づいて説明する。
国際金融は現実自体がこみ入っているので、何よりも分かりやすい講義を心がけたい。受講者には、教科書として指定した書物（重要な内容が、平易に書かれている）によって、予習や復習に心がけて頂くよう求めたい。理解度が倍増する。
抽象的理論以上に、制度や実務、歴史などにかんする知識の蓄積が重要な分野なので、勉強のし甲斐もあるし、努力に正比例して目標達成感も得やすいだろう。大学時代に、専門的知識を身につけよう！

［成績評価の方法］

中間試験と期末試験を行い、均等に評価する。出席状況も加味する。

［教科書］

［参考文献］

秦忠夫・本田敬吉『国際金融のしくみ』
（有斐閣、新版、2002年）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
国際経済論		秋学期集中	4単位	三　邉　信　夫

［講義概要・学習目標］

この講義では、国際経済学の基礎理論を解説する。国際経済学は、国際間における取引（trade）つまり貿易に関する事柄を研究対象としている。取引である限り最低2つの国（または2人）および2つの財貨の存在が必要である。貿易は両国間の効用関数の差異（つまり両国民の間の趣好の差異）があれば行われるが、その財貨が生産物である場合、生産関数が問題となる。財貨を生産する技術や生産要素、つまり労働や資本の要素賦存量の国際的差異を考えに入れなくてはならない。価値または価格という場合も生産物間の交換比率だけではなく、生産要素間の交換比率つまり要素価値比率（または分配率）および両者の間の関係が考慮されねばならない。さらにこれらの基礎的条件が変化した場合、具体的には、技術進歩や資本蓄積、労働人口の増加が行われたとき、交易条件やその国の生活水準に及ぼす影響なども分析される。

［講義計画］

1. 交換経済、オファー曲線、貿易利益
2. 均衡の安定性、マーシャル・ラーナーの安定条件
3. リカード比較生産費説と賃金決定
4. 商品交易条件と要素交易条
5. 生産論、等生産量曲線と生産可能曲線
6. 貿易方向の決定、ヘクシャー・オリーン理論、国の規模、技術進歩
7. 要素価格均等化、リプチンスキィ効果、ストルパー・サムエルソン理論
8. 国際貿易における双対関係
9. 比較生産費基準と所得弾力性基準
10. 経済成長と交易条件

交換経済、オファー曲線、貿易利益

［成績評価の方法］

試験、出席

［教科書］

三邉信夫（著）『国際貿易と経済成長理論』（大阪市立大学経済学会）

［参考文献］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
アジア経済論		春学期集中	４単位	巌　善平

［講義概要・学習目標］

10年ほど前、「21世紀はアジアの時代」という喧伝は日本では盛んであった。しかし、そのアジアは、タイのバーツが下落した1997年７月以降、深刻な通貨・金融危機に見舞われた。一時期、アジア経済の過去が幻のものだという批判は人々の関心を集めたが、1998年後半から、危機に陥ったアジアの国々は経済の再建に着手し、非常に短い間に経済の回復を実現し、再び世界経済の成長を牽引するようになりつつある。

アジア経済の成長がいったい何によってもたらされたのか、この間の経済危機はどうして生じたか、今後のアジア経済の可能性は如何なるものであろうか。

この講義では、東アジアと東南アジア各国の経済成長と構造変化、経済的な相互依存関係の現状、形成過程と問題点などについて、開発経済学の理論的枠組みに沿いながら、分かりやすく解説する。

［講義計画］

Ⅰ　西太平洋地域経済のパフォーマンス
1．東アジア、東南アジア経済の過去といま
2．西太平洋地域における雁型経済発展のメカニズム
3．西太平洋地域における経済の成長と構造変化と相互依存
4．アジア経済の未来をどう見るべきか

Ⅱ　アジア経済の捉え方
1．経済開発の基本的課題　――発展の目的は何か
2．伝統産業＝農業と近代産業＝工業　――工業化戦略のあるべき姿
3．経済開発と援助・貿易・投資　――先進国の役割とは
4．後発国における経済開発と政府の役割　――開発独裁が必要悪か
5．経済開発と環境・資源・食料問題　――成長の限界をどう考えるか

［成績評価の方法］

中間レポート＋期末試験

［参考文献］

随時配布する。

［教科書］

渡辺利夫『開発経済学入門』東洋経済新報社　2001年

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
ヨーロッパ経済論		通期	４単位	棚池康信

［講義概要・学習目標］

この講義ではヨーロッパの経済統合（EU）につい論じてゆく。EUは共通通貨ユーロの紙幣とコインが発行され、従来の国民通貨はすでに姿を消している。この共通通貨の導入は、ヨーロッパ各国の市場が一体化し、ヨーロッパ企業がヨーロッパ市場を単一のものとして行動しつつあることが前提となっている。また、経済政策も多くの分野で共同体やECB（欧州中央銀行）に権限が移されている。このようにEUは経済統合の面ではきわめて高い段階に到達しており、さらにそのディメンションは政治統合から、市民的統合の側面を加えつつある。また、中東欧諸国を中心に加盟国の増加が予定されており、ヨーロッパの一体的空間は今以上の経済的・政治的重要性をもつことになる。このようなヨーロッパ経済統合の現状を理解することがこの講義の課題である。ユーロを導入したヨーロッパ経財の現状は実に興味深いが、単なる現状理解にとどまらず、統合の歴史的過程と国際経済環境の中に、EU経済の現状を立体的に位置付けることを目標とする

［講義計画］

前期　市場統合とユーロの導入
1．国際経済学とヨーロッパ経済論
2．市場統合の論理と現実
3．市場統合と地域政策
4．市場統合と経済通貨同盟
5．92年市場統合
6．マーストリヒト条約とEU
7．ユーロの導入階
8．経済通貨同盟の機能と運用

後期　経済通貨同盟のディメンション
1．92年市場統合の意義
2．単一欧州議定書
3．統合の再出発と地域政策
4．市場統合と域内貿易・直接投資
5．経済通貨同盟段階の共同市場
6．市場統合の現状
7．市場統合とEU経済の構造改革
8．ユーロ導入後のEU経済

［成績評価の方法］

前期･後期末の試験によるが、経過によっては授業中の小テストを実施する。

［参考文献］

田中素香他『現代ヨーロッパ経済』有斐閣
島野卓爾他編『EU入門』有斐閣
清水貞俊『欧州統合への道』ミネルヴァ書房
内田勝敏・清水貞俊編著『EU経済論』ミネルヴァ書房

［教科書］

棚池康信『EUの市場統合』晃洋書房

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
アメリカ経済論		通　期	4単位	中本　悟

［講義概要・学習目標］

本講義は、現代アメリカ経済の構造と発展について、いくつかの領域に分けて講義する。アメリカ経済や企業において生じたことは、遅かれ早かれ日本においても生じてきた。

しかし、それは同じ形で日本で生じているわけではない。アメリカにはアメリカ固有のイデオロギー、行政・立法・司法機構、経済法、経済制度があり、日本やヨーロッパと異なった形態で問題が生じ、したがってまた異なった形で解決されることも多いい。

こんにちの主流派の経済理論は、アメリカ経済を土台として作られている。したがって、日本ならびにアジア経済の研究を土台とした経済理論の創造的発展が求められるが、このことも本講義を通じて理解できよう。

本講義では、それぞれの主題について、問題の構造と歴史的展開、現状、政策展開について解明する。またアメリカ経済の比較制度的な研究を重視するアプローチで講義する。

本講義によって、アメリカン・エコノミック・スタンダードを知ることは、日本経済の改革を考える上でも有意義である。

［講義計画］

講義は、概ね国内経済の構造を前期に、対外経済関係を後期に、それぞれ行う。各主題は、2回程度である。

Ⅰ部　アメリカンスタンダードの基本構造
①産業構造と企業経営
②多国籍企業とアメリカ経済
③軍産複合体とハイテク産業
④農業とアグリビジネス
⑤金融市場の発展と金融革新
⑥財政構造と財政政策の展開
⑦労働市場と労使関係の変容
⑧「アメリカ経済再生と「ニューエコノミー論」

Ⅱ部　アメリカン・グローバリズム
⑨アメリカの貿易構造
⑩通商法と通商政策
⑪通商政策の歴史的展開
⑫多国籍企業と通商政策
⑬地域主義（NAFTA,APEC）
⑭日米貿易摩擦の歴史と現状

［成績評価の方法］

授業終了時に、年何度かコメントを書いてもらう。これを平常点とし、年度末の筆記試験とを総合的に評定する。

［参考文献］

授業中に、別途、指示する。

［教科書］

レジュメと資料に基づいて講義する。

後期は、中本　悟著『現代アメリカの通商政策』（有斐閣）を利用する。テキストとおりに講義するので、講義前に入手されたい。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
中国経済論		秋学期集中	４単位	厳　善平

［講義概要・学習目標］

日本では中国関連の情報が溢れるほど多い。日中間の経済交流をはじめて様々な側面における両国間の相互依存関係がますます強まっている。にもかかわらず、中国が遠い隣国だという親近感を持たない日本人は少なくない。どうしてこうなっているのか。この講義では、こうした疑問を念頭におきながら、中国そして日中関係に対する客観的な理解を深めるための基礎情報を提供し、出来るだけ客観的な解説、分析を行う。

過去20余年、中国は内部の体制改革と対外開放を国策に掲げ、経済の発展をすべての政策の中心に据えた。その結果、年平均10％近くの経済成長が遂げられ、世界経済における存在感が著しく高まった。日本を含む世界各国との様々な関係が一層緊密化している。しかし一方では、急変する中国社会の中には多くの問題や矛盾も目立っている。

この講義では、現代中国経済の仕組み、成長と構造変化のダイナミズムについて、現地調査の生の情報やドキュメンタリーの映像資料を活用しながら、分かりやすく説明する。まず中国社会主義経済の成立→運営→改革の軌跡を簡単に触れる。次に中国経済の市場化改革と国際化の現状を説明し、世界の工場まで成長した中国の主要産業の実力を明らかにする。最後に世紀を跨ぐ難題である中国の農民・国家関係、都市・農村の格差問題、食料問題などについて解説し、国民国家への移行の可能性について展望する。

［講義計画］

Ⅰ毛沢東時代の中国経済
1．中国社会主義経済の成立から改革までの軌跡――社会主義改造
2．経済の成長メカニズム――農工関係の政治経済学
3．社会経済の基本的仕組み――国営企業、人民公社
4．社会主義計画経済を支えた制度装置――戸籍制度、食管制度等

Ⅱ鄧小平時代の中国経済
1．経済体制改革のプロセスとパフォーマンス――漸進的改革が良かったか
2．世界の工場としての中国――経済の国際化はどこまで進んだか
3．市場経済化を推進する主役達――郷鎮企業と私営企業はいかに成長したか
4．「均富論」から「先富論」への方針転換とその結果――格差はどう見るべきか
5．人口・食糧・資源・環境問題の今――持続可能な成長を制約するものは何か
6．「農民国家」の行方――都市・農村格差は解消するか

［成績評価の方法］

中間レポート＋期末試験

［参考文献］

・南亮進・牧野文夫編『中国経済入門』日本評論社　2000年
・中兼和津次監修『現代中国経済シリーズ　全８巻』名大出版会　2002年～
・加藤弘之・上原一慶偏『中国経済論（仮）』ミネルウァ書房　2004年
・関連資料は随時配布する。

［教科書］

厳善平『現代中国経済シリーズ２　農民国家の課題』名古屋大学出版会

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
情報システム論 （旧経済学特講 - 情報システム論）		通　期	4単位	芦　田　昌　也

［講義概要・学習目標］

社会の基盤施設や経済活動における必須の道具から，個人での情報活用のための文房具に至るまで，情報システムは私たちの生活に深く入り込んでいる。この講義では，こうした情報システムを開発する側と利用する側の両方の観点から考察していきたい。

まず，前半部では，情報システムの一般的基礎知識に関して講義する。可能な限り最先端の情報技術の動向についても紹介していきたい。後半部では，データベースシステムに焦点をあてながら，情報システムの効率的な設計と管理運用について講義する。

［講義計画］

1. システムとは
2. 情報システムとは
3. 情報システムの利用形態
4. 情報システムの実例
5. 情報システムの変遷
6. 情報システム技術
7. 情報システムの設計と管理
8. 情報システム技術の将来展望
9. データベースとは
10. データモデル
11. 関係データベースとSQL
12. データベースの設計
13. データベースシステムの基本構成
14. データベース管理システム
15. 分散型データベースと集中型データベース
16. 情報検索システムの実現と効率化
17. インターネットの情報収集方式
18. インターネットの情報検索方式

［成績評価の方法］

試験の成績により評価する。

［教科書］

特になし。必要に応じて，資料を配布する。

［参考文献］

坂村　健　「大人のための「情報」教科書」数研出版
浦　昭二・市川照久（共編）「情報処理システム入門［第２版］」サイエンス社

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
データベース実習		春学期	2単位	初　瀬　慎　一

［実習概要・学習目標］

本講座では、まずMicrosoft Access を用いてデータベースを作成し、リレーショナルデータベース全般の基礎的概念、構築・運用の実際を学ぶ。次いで本学の教育研究用サーバに構築されているRDBMS環境を利用して、SQLによるデータベース検索を行う。

さらに、Webサーバとの連携で簡易データベース機能を持つホームページの作成を行う。

［実習計画］

1. Microsoft Access の操作の基本
2. データ型の決定、入力・出力・検索フォーマットの決定
3. データ入力、Excelなどからの読み込みとトランザクション処理
4. データベース検索
5. データファイルの追加とリレーショナル処理
6. PostgreSQLの基本操作
7. SQL言語によるデータ検索
8. WWWサーバーとCGIによる簡易データベースの作成

［成績評価の方法］

提出レポートの評価を中心に実習成果との総合評価を行う。出席は3分の2以上であること。

［教科書］

開講時に指示する。

［参考文献］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
ネットワーク論	02	春学期	2単位	初　瀬　慎　一

［講義概要・学習目標］

ネットワーク技術の進歩とインターネットの普及に伴い、それらの技術を応用した新しいサービスが次々と生み出されている。また、ネットワーク構築・運用に関する知識はさまざまな分野で求められるようになった。

本講義では、ネットワーク関連技術、構築方法を中心に現在および今後のネットワークシステムに関して解説し、現代社会と情報ネットワークを活用するという観点から、各種活用手法や、さらには新しいサービスやビジネスを創造するための姿勢を養うことも目標とする。

［講義計画］

1. 情報通信ネットワークとは
2. インターネット
3. ネットワーク基礎知識
4. クライアントサーバシステム
5. ネットワーク構成詳細
6. WWWとその活用
7. 安全性と信頼性
8. さまざまなサービス
9. ネットワーク構築手法
10. 現代社会とネットワーク
11. 今後のネットワーク事情
12. まとめ

［成績評価の方法］

提出レポートの評価を中心に試験との総合評価を行う。出席は3分の2以上であること。

［教科書］

開講時に指示する。

［参考文献］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
ネットワーク実習	02	秋学期	2単位	初　瀬　慎　一

〔講義概要・学習目標〕

近年、ネットワーク技術の進歩やインターネット、イントラネットの普及によりコンピュータとネットワークは切り離せないものとなった。また、インターネットの利用が普及する中、膨大な資料の中から目的の情報を探し出せることのできる能力は重要である。

本演習では、コンピュータ・ネットワークに関する理解を深めるため、インターネットを主としたネットワークの利用を体験することにより、ネットワークの活用技術、現状や問題点の発見・検討、ネットワーク技術の理解を目指す。その利用の中で、ただ単に利用するだけでなく、常に問題意識をもってコンピュータ・ネットワークと接する姿勢を養うことも目的とする。

［講義計画］

1. コンピュータ・ネットワークとは
2. インターネット
3. ネットワークを活用した情報収集
4. ネットワーク技術の基礎
5. 通信プロトコル
6. インターネット詳細
7. さまざまなネットワーク上のサービス
8. HTML, XML, JAVA
9. ネットワークの安全性
10. 現在のネットワークの問題点、解決策、セキュリティ
11. 今後のネットワーク事情について
12. まとめ

［成績評価の方法］

提出レポートの評価を中心に試験との総合評価を行う。出席は3分の2以上であること。

［教科書］

開講時に指示する。

［参考文献］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
マルチメディア論	02	春学期	2単位	水口　薫

［講義概要・学習目標］

今日、世界でやりとりされる主な情報伝達方法は、郵便、新聞、雑誌、電話、映画、テレビ、CM、インターネットと様々である。これらのメディアは自然環境と同じくらい巨大な存在となり、それらを通じて提供される情報は、情報社会（人間生活）において必要不可欠の要素となっている。こうした意味において、現代はメディア統合の時代といえる。

それは単なるコンピュータの発達、変化ではなく、メディアのコンテンツがネットワーク上で融合することを意味しており、情報・通信産業あるいは人間社会にまで大きな影響を与えている。

本講義では、メディアとソフトウェア、表現、社会、環境はどのような関連をもつのか、その基礎理論、歴史、現状を学習することにより、知識・情報を利用した価値ある新しいものを生み出す創造力、メディア・リテラシーを身に付けることを目的とする。

［講義計画］

1．メディア（媒体）とは
　1）メディアの歴史
　2）メディアと社会環境
　3）メディア・リテラシーとは
　4）メディアと倫理、関連法規
2．表現とメディア
　1）ハードウェアとソフトウエア
　2）マルチメディアの現在
　3）ネットワーク社会（インターネット）
3．マルチメディアの意義と問題点
　1）メディアとしての仮想現実空間
　2）メディアとリアリティ（公共媒体）
　3）メディアとリアリティ（広告媒体）
4．まとめ

［成績評価の方法］

出席を兼ねた小テスト（適時）、定期試験と出席点で総合評価

［参考文献］

「メディア・リテラシー　マスメディアを読み解く」
カナダ・オンタリオ州教育省（編）（リベルタ出版）
ＦＣＴ（市民のテレビの会）（訳）
その他、講義の時に提示する。

［教科書］

特になし。適時、プリントを配布。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
マルチメディア実習	02	秋学期	2単位	水口　薫

［講義概要・学習目標］

今日、情報社会・人間生活においてコンピュータ、ネットワークの発達は目覚しいものがある。文字データだけであったものが画像（静止画、動画）音声データを処理できるようになってきた。それらを通じて提供される情報は、社会の変革をもたらすほどの影響力を持ち、またそれらを扱う能力、メディア・リテラシー（メディアの読み取り、書く能力）は、必要不可欠の要素となってきている。

本講義では、メディア統合、情報・通信時代のそれぞれのメディアの特性、基礎理論を理解し、表現手段として活用できる能力、また単にメディアコンテンツが作れるというだけでなく、知識・情報を利用した価値ある新しいものを生み出す創造力を実習で身に付けることを目的とする。

［講義計画］

1．マルチメディア概論
　1）マルチメディア概論、利用方法
　2）ソフトウェアとハードウェア環境
2．デジタルコンテンツの作成方法とメディア表現
　1）静止画（デジタル・カメラ）撮影
　2）静止画作成・編集（フォトショップ）
　3）動画（ビデオ・カメラ）撮影
　4）動画作成・編集（プレミア）
3．マルチメディアと周辺領域
　1）インターネット
　2）データベース、関連法規、倫理との関連
4．まとめ

［成績評価の方法］

実習と出席点で総合評価

［参考文献］

「メディア・リテラシー　マスメディアを読み解く」
その他、講義の時に提示する。

［教科書］

特になし。適時、プリントを配布。

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　　当　　者
情報と職業		通　　期	4単位	田　村　　昶　三

［講義概要・学習目標］

講義概要

情報化の進展に伴い，さまざまな影響が社会に及んでいる。これらの影響を「職業選択する立場」から理解することが本講義の目的である。情報産業の現状を把握するとともに，職業としての情報分野における課題について考える。情報分野で「働く」ことの意味（価値観や勤労観）について。

①コンピュータ知識は陳腐化する中で「生きる力」の根底に有るものを探求。②コンピュータ技術以前のコミュニケーションそれ自体から「情報産業で働くために」を学びとる。③情報リタラシー（書き上げる力・読書する力・情報を収集して整理する力）を習得する。④職業選択と職業指導の方法論と具体的な実践。

第１部　情報化社会の進展と職業
第２部　情報ビジネスと職業
第３部　職業としての情報教育
第４部　ｅビジネスと個人の職業選択

学習目標とゴール

高校生がITを利用するに必要な知識、技術、倫理の理解を深める。同時に情報分野への就職希望者を職業指導ができる。　（普通高校　普通教科「情報」の授業プランつくりと実践のために）

1）ITの発達と現状と今後の課題が理解出来る。
2）近年の職業・労働の変化の特徴が理解出来る。
3）ITの発達と職業・労働の変化の関係について述べることができる。

［成績評価の方法］

1. 出席重点。コンピュータを使い授業の要旨を報告書にまとめる。
2. 学期の中間２回〔春期と秋期〕のリポート提出。
3. 中間と期末試験。　等の三項目の総合点により評価する。

［教科書］　教材は、毎週プリントで配布する。

［講義計画］

第１部　情報化社会の進展と職業
1　情報化の進展と社会に対する影響。産業構造の変化。意識構造の変化。
2．職業と情報リテラシー　　3．情報伝達手段の変遷と職業の変化。
4．情報化社会の進展と問題点の整理
第２部　情報ビジネスと職業
5.　情報産業の現状と課題　　6．ＩＴ活用によるビジネス社会の現状と課題
7．情報分野の人材需要　　8.企業を知る一企業戦略・企業組織・経営資源
9．企業を知る一企業の管理と実践活動〔コントロールとオペレーション〕
10．情報分野の人材マネジメント（エンプロイアビィリティイ　コンピテンシー）
第３部　職業としての情報教育
11．情報分野における職業間・勤労観・職業倫理・労働問題
12.職場レベルの情報と職業　　13．中間テスト
14.ITの進展を理解する
15．オペレーション能力（操作）とコンピュータ・リタラシー
第４部　eビジネスと個人の職業選択
16.パラダイムの変貌と求める人材の変化　　17.知価社会における企業と個人の関係
18　知価社会における人材とは　　19.知価社会における個人と組織と国家の関係
20.　メディアリタラシーと今後の課題　　21.eビジネスと生き甲斐
22．職業指導実践一就職活動の実践計画　　23.職業指導実践一自己分析
24．職業指導実践一業界・企業研究
25．総まとめ

［参考文献］

講義に関する参考資料を都度わたす。
毎週、１冊参考書を紹介する。
「高等学校学習指導要領解説　情報編」（開隆堂出版）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学基礎講義 社会学の基礎理論と社会的現実	０１ ０２	秋学期集中 春学期集中	４単位 ４単位	鈴　木　富　久

［講義概要・学習目標］

社会学があつかう問題は、すでに各人の日常社会生活のなかにある。社会学の基礎概念・基礎理論の学習によって、これが見えてくる。そこで前半では、「人間とは何か」という問題の考察を出発点にして、行為・社会関係・社会構造・文化・社会規範・組織・集団・社会化・国家・市民社会、等々の社会学の基礎概念を講じ，併せて新旧の代表的社会学者の諸理論の学習を課す。後半は、歴史的現実の次元に移って世界社会学の視野から現代日本社会を主題とし、その近代化過程の特徴と現在の体制的・構造的全体像、さらに、そこに内包される諸問題へと講義を展開する。後期は、ビデオや新聞・統計資料等を多用する。

学習目標は、社会学の視野や方法論，基礎知識の獲得、それを通じた学問的な探究と思考のスタイルの習得、さらに現実社会の諸問題への学的関心の喚起にある。この目標達成のため、レポート・感想文等の提出物が多いし、講義内容はやや高度である。欠席を避け、最初から真剣な態度で受講に臨むことが必要である。

［講義計画］

序．社会学とは何か
第Ⅰ部　基礎概念
§１．社会的存在としての人間
§２．行為と文化・社会規範
§３．組織と集団
§４．「社会化」と国家
＊併行して『人間再生の社会理論』を各自読む（各章感想文提出）

第Ⅱ部．世界社会学の視野と現代日本社会
§１．近代世界システムの展開と日本
§２．日本の近代化過程
§３．戦後日本社会の展開（ビデオ併用）
＊ビデオ感想文提出
§４．日本社会の現状と問題
結．社会学の理論と社会的現実

［成績評価の方法］

①試験成績、②レポート成績（読書・ビデオ感想文等）、③出席点、等を総合して評価する。

［教科書］

鈴木富久『社会学講義ノート〔新訂〕』
小林・大関・伊藤・鈴木・竹内『人間再生の社会理論』創風社

［参考文献］

暉峻淑子『豊かさの条件』岩波新書
見田宗介『現代社会の理論－消費化・情報化社会の現在と未来』岩波新書
宮本常一『忘れられた日本人』（岩波文庫）岩波書店
ジョン・ダワー『敗北を抱きしめて』（上・下）岩波書店
ウォルフレン『日本・権力構造の謎』（上・下）早川書房（文庫版あり）
渡辺治・後藤道夫編『講座・現代日本』全４巻、大月書店
松田博・鈴木富久編『グラムシ思想のポリフォニー』法律文化社
浜島・竹内・石川編『社会学小辞典』有斐閣
（その他、古典や基本文献を含め、教科書『社会学講義ノート』140-141 頁を参照）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学基礎講義	０３	春学期集中	４単位	竹内　真澄

［講義概要・学習目標］

「基礎講義」とは、社会学部に入った新入生のための、スタートラインになるべき科目である。ここで、学習のゴールのようなものを示すならば・・・。

第一に、この学問の入り口でもっとも大切なことは、世界や社会や時代の変化に新鮮な驚きを感じ取ることである。

第二に、これと表裏一体になっていることであるけれども、社会にすでに深く入り込んでしまっている自分とか身の回りの人々が、実は、とても謎めいた存在だということを発見する能力を身につけることである。人間というものが、謎めいた社会性をもっているということを突き放して見る力と言い換えてもよい。

第三に、自分と他人に関心をもつこと。自分を知るためには、社会（他人）を見るしかないし、社会（他人）を知ろうとすれば、自分を突き放していなければ見ることはできない。

第四に、以上のことを、本当に君自身の経験によって、また、身の切れるような痛覚とともに、すごい違和感を伴って味わいとってほしい。

たぶん、これらはとても原理的なことなのだと思う。これらの感覚を持てるようになれば、あとはおのずと「社会学的」に歩いていけるようになるはずだ。

［講義計画］

＜前半＞時間や空間を変えてみると、人間の生活、思考様式、感覚、などが変わりやすいものだということがわかるだろう。このことをできるだけ具体的に扱う。

そのために、いろいろな事柄を比較する。北欧と日本、１９６０年代と現在、人種、本土と沖縄、男性と女性、共同体と市民社会、バラバラな個人と連帯する個人などである。これらをつうじて私が主張したいのは、人間が非常に不確かで、移ろいやすいものだということ、しかし、同時に一旦安定すると、変化を恐れて保守化し、時には、新しい存在を敵視するようにさえなるということである。

＜後半＞現在の社会が直面するいろいろな社会問題を解明し、その問題がなぜ、どこから発生するか、解決のためにはなにが必要かを探る。現代の貧困、働き方の問題、過労死、失業、自殺、近代化、階級と階層、自分のものとは思えない人生を生きる辛さ、などである。

［成績評価の方法］

出席、毎回の感想、時折課すかもしれないレポート、学期末テスト等から総合的に判定。

［教科書］

竹内真澄『福祉国家と社会権』晃洋書房

［参考文献］

吉野源三郎『君たちはどう生きるか』岩波書店
渡辺治『日本の大国化は何をめざすか』岩波書店
広井良典『定常型社会』岩波書店
見田宗介『現代社会の理論』岩波書店
阿波根昌鴻『命こそ宝　沖縄反戦の心』岩波書店
ポール・ウィリス『ハマータウンの野郎ども』ちくま学芸文庫
熊沢誠『女性労働と企業社会』岩波書店
小池直人『デンマークを探る』風媒社
ハワード・ジン著竹内真澄訳『ソーホーのマルクス』こぶし書房
福島清彦『ヨーロッパ型資本主義』講談社現代新書

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会学基礎講義	０４	春学期集中	４単位	宮本　孝二

［講義概要・学習目標］

社会学は家族から国際社会に至るまでの広範な社会現象を対象とする。この社会学基礎講義では、これから社会学を本格的に勉強する社会学部１年生に、社会学の基礎知識と、社会学的分析の基本的方法を習得してもらうことを目的としている。

まず、どのような社会現象にも存在する人間（パーソナリティと行為）と社会関係（相互行為、地位・役割）を把握する視点を提示した上で、家族、地域社会、職場、組織集団などの基本的な社会生活の場、政治や経済や文化等の社会領域、不平等問題や環境問題や犯罪問題などの社会問題について、基本となる情報と分析視点・方法を紹介する。問題解決と意味解読という2大課題に向けて、社会学的分析能力の基礎を養成したい。

［講義計画］

1　社会学とは何か：社会学の歴史と現在
2　パーソナリティと社会化
3　行為と相互行為：社会の基本構成
4　家族：現代家族の変容と課題
5　地域社会：コミュニティの諸相
6　職場と組織集団：組織論の展開
7　階級・階層：人々の分類と不平等
8　経済：産業化、グローバル化、情報化
9　政治：パワーとコンフリクト
10　教育：学校教育の機能と逆機能
11　科学技術：リスク社会の成立
12　宗教：世俗化と脱世俗化
13　逸脱：価値規範と犯罪・非行
14　文化の諸相：意味解読の社会学

以上の内容を、「まとめと補足」を含めて順次約２５回で講義する

［成績評価の方法］

期末テストの成績に、出席点数とレポート点数を加味して総合的に評価する。

［教科書］

倉橋重史・丸山哲央編『社会学の視点　行為から構造へ』（ミネルヴァ書房、１９８７年）

［参考文献］

その都度、適宜指示する。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会調査Ａ（旧社会調査）	０１ ０２	春学期 春学期	２単位 ２単位	過　放

［講義概要・学習目標］

この科目では、《社会調査入門》をめざして、社会調査の目的やその意義、調査の歴史、種類と実例、具体的な方法論、調査実施上の倫理など、基本的な事項について学ぶ。

社会学の学習には、さまざまな分野の学説や理論の習得とともに、データ収集と分析の技術としての社会調査法の習得が不可欠である。なかでも、マス・メディアで発表されるデータをうのみにせず、その作成過程（＝調査過程）に批判的な目を向けるリサーチ・リテラシーの獲得、および、社会学の各専門分野に共通の分析視角（集団と集団との比較を通して社会の構造にせまる）の獲得に重点をおきたい。

それは、演習での卒業論文作成や、社会調査実習ばかりでなく、信頼のおけるデータにもとづいて社会情勢を分析・判断し、行動する将来の社会人・市民の養成にも、つながるものである。

［講義計画］

1. 現代社会と社会調査
2. 社会調査の歴史
3. 社会調査が抱える諸問題と調査の倫理
4. 社会調査の種類と既存データの活用
5. 測定と分析の基礎①概念・操作的定義・変数
6. 測定と分析の基礎②仮説の構成
7. 測定と分析の基礎③記述と説明
8. 量的調査①種類と方法
9. 量的調査②サンプリングの論理
10. 量的調査③質問文の作成
11. 量的調査④調査票調査の実際
12. 質的調査①聴き取り調査
13. 質的調査②ドキュメント分析
14. 質的調査③参与観察
15. 調査結果の読み方

［成績評価の方法］

出席状況と筆記試験の結果を総合して評価する。

［参考文献］

・谷岡一郎『「社会調査」のウソ』文春新書
・森岡清志編『ガイドブック社会調査』日本評論社
・佐藤郁哉『フィールドワークの技法』新曜社
ほか、授業時に指示する。

［教科書］

大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会調査A（旧社会調査）	03 04 06	春学期 春学期 秋学期	2単位 2単位 2単位	木下　栄二

［講義概要・学習目標］

この科目では、《社会調査入門》をめざして、社会調査の目的やその意義、調査の歴史、種類と実例、具体的な方法論、調査実施上の倫理など、基本的な事項について学ぶ。

社会学の学習には、さまざまな分野の学説や理論の習得とともに、データ収集と分析の技術としての社会調査法の習得が不可欠である。なかでも、マス・メディアで発表されるデータをうのみにせず、その作成過程（＝調査過程）に批判的な目を向けるリサーチ・リテラシーの獲得、および、社会学の各専門分野に共通の分析視角（集団と集団との比較を通して社会の構造にせまる）の獲得に重点をおきたい。

それは、演習での卒業論文作成や、社会調査実習ばかりでなく、信頼のおけるデータにもとづいて社会情勢を分析・判断し、行動する将来の社会人・市民の養成にも、つながるものである。

［講義計画］

1. 現代社会と社会調査
2. 社会調査の歴史
3. 社会調査が抱える諸問題と調査の倫理
4. 社会調査の種類と既存データの活用
5. 測定と分析の基礎①概念・操作的定義・変数
6. 測定と分析の基礎②仮説の構成
7. 測定と分析の基礎③記述と説明
8. 量的調査①種類と方法
9. 量的調査②サンプリングの論理
10. 量的調査③質問文の作成
11. 量的調査④調査票調査の実際
12. 質的調査①聴き取り調査
13. 質的調査②ドキュメント分析
14. 質的調査③参与観察
15. 調査結果の読み方

［成績評価の方法］

学期末試験70％、出席・授業態度20％、課題の提出状況10％
（詳細は最初の授業で説明する。なお授業態度の不真面目なものは即刻除名処分とするので注意すること）

［教科書］

大谷信介ほか編著『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房

［参考文献］

・原純輔・海野道郎『社会調査演習』東京大学出版会
・高根正昭『創造の方法学』講談社現代新書
・谷岡一郎『「社会調査」のウソ』文春新書
・森岡清志編『ガイドブック社会調査』日本評論社
・佐藤郁哉『フィールドワークの技法』新曜社
ほか、授業時に指示する。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会調査A（旧社会調査）	05	春学期	2単位	竹中　英紀

［講義概要・学習目標］

この科目では、《社会調査入門》をめざして、社会調査の目的やその意義、調査の歴史、種類と実例、具体的な方法論、調査実施上の倫理など、基本的な事項について学ぶ。

社会学の学習には、さまざまな分野の学説や理論の習得とともに、データ収集と分析の技術としての社会調査法の習得が不可欠である。なかでも、マス・メディアで発表されるデータをうのみにせず、その作成過程（＝調査過程）に批判的な目を向けるリサーチ・リテラシーの獲得、および、社会学の各専門分野に共通の分析視角（集団と集団との比較を通して社会の構造にせまる）の獲得に重点をおきたい。

それは、演習での卒業論文作成や、社会調査実習ばかりでなく、信頼のおけるデータにもとづいて社会情勢を分析・判断し、行動する将来の社会人・市民の養成にも、つながるものである。

［講義計画］

1. 現代社会と社会調査
2. 社会調査の歴史
3. 社会調査が抱える諸問題と調査の倫理
4. 社会調査の種類と既存データの活用
5. 測定と分析の基礎①概念・操作的定義・変数
6. 測定と分析の基礎②仮説の構成
7. 測定と分析の基礎③記述と説明
8. 量的調査①種類と方法
9. 量的調査②サンプリングの論理
10. 量的調査③質問文の作成
11. 量的調査④調査票調査の実際
12. 質的調査①聴き取り調査
13. 質的調査②ドキュメント分析
14. 質的調査③参与観察
15. 調査結果の読み方

［成績評価の方法］

出席状況と筆記試験の結果を総合して評価する。

［教科書］

大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房

［参考文献］

・谷岡一郎『「社会調査」のウソ』文春新書
・森岡清志編『ガイドブック社会調査』日本評論社
・佐藤郁哉『フィールドワークの技法』新曜社
ほか、授業時に指示する。

「社会学科基礎演習」について

社会学部教授会

1992年度より社会学部社会学科新入生を対象に開講されたこの「社会学科基礎演習」は、社会学部教員によって質疑応答可能な少人数クラスのゼミナール形式で運営される。そこでは、特定のテーマを選択し、それを研究するさまざまな方法や、その結果を口頭で報告したりレポート・論文にまとめたりするなどの基礎的な方法について指導をうけることになる。すなわち以下の４つの項目である。

① テーマの発見　：社会的現実への興味関心なくして社会学部の勉強はできない。現実の中に問題を発見する方法がまず学ばれねばならない。

② 情報収集　：特定テーマについて研究するのに必要な情報を探し収集する方法は、そのテーマに応じて多種多様である。情報源の種類は、単行本、雑誌、新聞などの活字メディアはもちろん、映像・音声メディアと多彩であり、さらには現場・現地における参与観察やインタビューやインターネットなどもある。それらの情報を効率よく正確に探索し発見し入手する法について学ぶ。

③ 情報解読：収集された多種多様な情報は解読され整理されねばならない。たとえば本の読み方であり、新聞・雑誌の読み方である。あるいはテレビ・映画の見方であり、観察の仕方、体験の反省的検討の仕方である。それらの方法について学ぶ。

④ 口頭報告、討論、レポート・論文作成　：
解読された情報は蓄積しておくだけではなく、表現され伝達されなければならない。ゼミナールにおいて口頭で報告したり、討論し合ったり、さまざまなテーマについて小論文を書き添削指導を受けたり、また、年間を通じて特定テーマを選択し論文を書いたりすることなどを通して、研究発表の方法を学ぶ。

大学での４年間の学習において、また、卒業後の職業生活において必要なのは特定テーマについて情報を収集し・蓄積し、それらを解読・整理し、自分の問題関心や視点に基づいて再構成し、それを表現・伝達する力である。それは即席では身につかない。そこでこの基礎演習に参加して、その力を少しでもつけておくことが望ましい。ただし、開講される基礎演習の各クラス案内に書かれているように、取り上げられる具体的テーマや、指導において重点の置かれる項目には違いがあるので、案内をよく読んで選択していただきたい。

科目名称　：　社会学科基礎演習
対　　象　：　社会学部社会学科１回生
形　　式　：　ゼミナール
定　　員　：　30名

「社会学科基礎演習」クラス・研究テーマ一覧

ｸﾗｽ	担当者	研究テーマ	ﾍﾟｰｼﾞ
０１	巖　圭介	環境問題を考える	１６８
０２	北川　紀男	人口問題について	１６８
０３	木下　栄二	「身のまわり」からの社会学	１６９
０４	宮本　孝二	社会学的分析の方法	１６９
０５	中村　秀之	現代日本文化研究入門	１７０
０６	西川　一廉	青年の心理を考える	１７０
０７	原田　達	＜社会＞と出会うこと	１７１

1. ゼミナール形式で授業を行うため、定員を30名とします。従って応募者が定員を超えた場合は、クラスへ参加できないことがあります。
2. どのクラスも出席を重視します。一定の成果をあげるために、授業への継続的な出席が欠かせないからです。
3. この科目は、学則上社会学部社会学科教育科目「学科選択科目（4単位）」に位置づけられています。
4. 履修登録にあたっては以下のとおり事前に**予備登録（先着順受付）**が必要です。

対象者：04SS生（社会学部社会学科１回生）
定　員：30名
予備登録日時：4月6日（火）　9:10～15:00（11:30～12:30　昼休憩）
場　所：教務課窓口
申込方法：先着順に受付決定します。教務課窓口で申込書を受け取り、必要事項を記入の上提出してください。

＜注意＞**①学生証がないと受付できないので、必ず持参してください。**
②申込みにあたっては、事前に授業時間割表で希望クラスの曜日・時限を確認し、当日クラス番号が言えるよう準備しておいてください。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学科基礎演習	０１	通期	４単位	巖　　圭　介

［演習概要・学習目標］

この演習では、環境問題を材料にして、大学生活に必要な基礎技術　－調べる、読む、考える、書く、伝える－　を身につけてもらう。

インターネットの普及により、資料を集めるのは簡単になった。とくに環境問題に関する情報はちまたにあふれている。その資料を集めてどうするか、そこからどうやって重要な情報をつかみ、それをどう人に伝えるか。これらのことを身につけてもらうのがこの演習の目的である。

［演習計画］

実際に、いろいろなテーマについて論文を書き発表するまでのプロセスを体験しながら、各ステップで気をつけるべきことを学んでもらう。

・資料収集演習
・討論演習
・レポート執筆演習
・プレゼンテーション演習

［成績評価の方法］

出席、報告、参加度、レポートなどを総合的に判断して評価する

［教科書］

とくになし

［参考文献］

荒木晶子ほか『自己表現力の教室』情報センター出版局　2000年

戸田山和久『論文の教室』NHKブックス　2002年

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学科基礎演習 （人口問題について）	０２	通　期	４単位	北　川　紀　男

［演習概要・学習目標］

この演習は、学問をすることのおもしろさを、さらには社会学を学ぶことのおもしろさを知ってもらい、社会学への動機付けをおこなうことを目論んでいる。同時に、社会学を学ぶ基礎的な素養を身に付けさせることも課題である。演習では、社会の基礎的資源である人口の構造的変化がもたらす社会・文化的影響について考察し、わが国の現状を把握させると共に、この考察を通じて社会学的な考え方を身に付けさせたいと考えている。演習資料としては、昨年５月から８ヶ月にわたって朝日新聞紙上で連載された「ダウンサイジングにっぽん～少子高齢化社会の衝撃～」を利用する予定である。

この科目は演習科目であるから、報告の準備を怠らないことは云うまでもないが、授業に出席することが先ず第一であり、欠席することは厳に謹んでもらいたい。また、演習中には、積極的に発言するように心がけて欲しい。

［演習計画］

①大学生活について
②社会学を学ぶための心構え～問題意識の重要性～
③わが国の人口構造の現状と特徴について
③以下の大半の時間は、２００３年に５月から８ヶ月にわたって朝日新聞に連載された「ダウンサイジングにっぽん～少子高齢化社会の衝撃～」を講読し、報告と討論を行う。
④２回生からの学習計画について

［成績評価の方法］

授業での報告、レポート及び出席状況に基づいて総合的に評価する。

［教科書］

演習で使用する資料は配布する。

［参考文献］

必要に応じて、その都度紹介する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学科基礎演習 （「身のまわり」からの社会学）	０３	通　期	４単位	木下　栄二

［演習概要・学習目標］

社会とは何か？　社会学とは何か？　そう考えるととても難しい問題のように思える。しかし、我々は誰もが社会の中で生きていて、我々がいて初めて社会も存在しうる。

この演習では、我々の身の回りの様々な事象（親子喧嘩、恋愛、流行、大阪のお笑い、あるいは大阪人のマナーの悪さ、校則、いじめ、要するに何でもありだ）と社会全体との関わりを追求することで、社会学のイメージと社会学的思考法を学ぶことが課題である。

［演習計画］

状況をみて調整するが、おおむね以下の通り。

<前期>

1．演習を進めていくための予備的な講義
2．各自の問題関心の明確化
3．資料の探索、レジュメ作成の仕方についての講義
　（この段階でパソコンを利用する）

<夏休みの課題：中間レポートの作成>

<後期>

4．中間レポートの報告と討論
5．年度末レポートの作成

［成績評価の方法］

中間レポート、年度末レポート、出席、討論内容等から総合的に評価する。

［教科書］

特に指定しない。

［参考文献］

適宜指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学科基礎演習	０４	通期	４単位	宮本　孝二

［演習概要・学習目標］

社会学科基礎演習は、社会学を学んでいく大学生のために、その前提となる「社会についての基礎知識と、社会を知る方法と技術」の基礎を養成することをめざす。

第１に、歴史と地理の基礎知識を習得する。特に戦後日本の歴史と現在、現代世界事情の常識を学ぶ。

第２に、新聞や雑誌の読み方を習得する。社会学的分析の宝庫ともいうべき資料の解読方法を学ぶ。

第３に、講義の受け方、専門書の読み方を習得する。それらを能力向上に活用する方法を学ぶ。

［演習計画］

毎回、全員参加が原則となる。まず、指名された数名が「この１週間で受講した講義から学んだ内容」を口頭報告する。次に「この１週間のニュース」について提供された資料をもとに解説が加えられ、知識の拡充がはかられる。また、毎回順次提供される戦後日本史の各種資料と、現代世界事情の各種資料をもとに解説が加えられ、歴史と地理の基礎知識の拡充がはかられる。

さらに、前週に指名された数名が、与えられたテーマについて図書館やインターネットで調べた内容を、報告資料をもとに口頭で発表する。

［成績評価の方法］

出席点を中心に評価する。

［教科書］

使用しない。

［参考文献］

その都度、適宜指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学科基礎演習	０５	通　期	４単位	中　村　秀　之

［演習概要・学習目標］

大学で学び、研究を行うための基礎力を養う演習です。
春学期は、研究を行うための基本的な作法と技法を具体的に学んでいきますが、単に「情報」を収集してそれを処理するテクニックを習得するだけでなく、むしろ〈自分で考える〉力を鍛えることが最大の課題になります。また、「文化」について社会学的に考えるとはどういうことなのかを学びます。
夏期休暇中には、秋学期に向けての準備作業として、現代日本文化についての課題図書を精読し、レポートを作成します。
秋学期は、各自与えられた個別課題について調査し、演習の場での発表、討論などを通して、考える力・表現する力・聴く力を鍛えつつ、現代日本文化の諸問題について理解を深めていきます。
最終的に、学期末レポートによって一年間の成果を形にしましょう。

［演習計画］

〈春学期〉
「自分で考える」ための基礎レッスン。

〈夏期休暇〉
「現代日本文化」についての課題読書とレポート作成。

〈秋学期〉
「現代日本文化」についての個別課題研究。
各自の発表とそれにもとづく全員の討論。
期末レポートの作成。

［成績評価の方法］

出席・演習への参加の度合い・中間レポート・期末レポートによって評価します。

［参考文献］

授業中に適宜指示します。

［教科書］

苅谷剛彦（著）『知的複眼思考法』（講談社＋α文庫、2002年）

永井均（著）『翔太と猫のインサイトの夏休み』
（ナカニシヤ出版、1995年）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学科基礎演習	０６	通　期	４単位	西川　一廉

［演習概要・学習目標］

「青年の心理を考える」が当演習のテーマである。
青年期はいわゆる子どもから大人への移行期に当たる。心身共に人生の中でもっとも変化が激しく，それゆえ激動の時代とも疾風怒濤の時代ともいわれてきた。この時期は一般に前期，中期，後期に分けられるが，大学時代は青年期後期に当たる。いわば青年期の総仕上げをし，子ども時代を卒業して，大人の仲間入りを果たす最終段階である。しかし周知のようにモラトリアムが長く，身体は大人だが，精神はいつまでも子どもでいる人も多い。
当演習の目的は，当事者である新入生諸君が自分たちで青年の心理について考えながら，これから始まる大学生活に向けて準備をすることである。相互に意見交換をしながら，私たちは何処からきて，何処へ行こうとしているのか，どのようになりたいと思っているのかなどを考えるのである。
そのためには積極的な探求の姿勢が必要である。与えてくれるのを待つ受け身の学生はいらない。

［演習計画］

小グループに分かれ，さまざまなテーマを設定して討議や実習を繰り返す。討議の成果はクラスに口頭発表をする。またレポートにまとめてクラスで報告する。グループは適宜，組み替える。したがって全員が報告の機会をもつ。
また前期末，後期末にはレポートを課す。前期末のレポートをもとにプレゼンテーションするのが後期の主たる課題となる。

［成績評価の方法］

出席，報告，討議への参加，レポートをもとに総合的に評価する。

［参考文献］

随時，指示する。

［教科書］

未定。

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　　当　　者
社会学科基礎演習	０７	通　期	４単位	原　田　　達

［演習概要・学習目標］

演習のテーマは<社会>と出会うこと。
解るようで解らないのが<社会>、出会ってないようで出会っているのが<社会>、出会っているのにであっていることに気づかないのが<社会>、この奇妙な<社会>というものに出会い、気づき、解ることを演習のテーマとしたい。
まず、語り合うことから始めたい。<語り>の中にすでに<社会>はある。と同時に、<語り方>を身につけよう。
ついで<読むこと>、さらに<書くこと>、そして<観ること>、その度に君たちは<」社会>と出会うことになるだろう。こうして、社会学の基礎を身につけてゆくはずだ。

［演習計画］

まず自らを語ることから始めたい。その語りを多謝に伝えること。これが簡単なように見えて、結構むつかしい。ぼくたちは自己呈示（プレゼンテーション）の仕方を知らない。その技法を身につけること。
その次は「適当」な本を読む。「適当」というのは「いいかげん」という意味ではない。みちたち自身が「これは！」と感じた本のこと。そこに「社会」を発見すること。
その上で、きみたちの「社会」との出会いを書く。それは本がもたらした「社会」との出会いだ。こうして準備が整う。
最後に社会を観ること。きみたち自信の感性で人と街、ファッションと振る舞い、行動と雰囲気を観ること。観察眼が養われるだろう。

［成績評価の方法］

総合的に評価する。とりわけ積極性。

［教科書］

使用しない。

［参考文献］

演習のなかで指示します。

「社会学科文献演習」クラス一覧

ｸﾗｽ	担　当　者	ﾍﾟｰｼﾞ
０１	捧　　堅二	１７３
０２	清水　　夏樹	１７３
０３	藤澤　　隆史	１７４
０４	藤森　　勉	１７４
０５	山内　　乾史	１７５
０６	渡部　　美穂子	１７５

1. ゼミナール形式で授業を行うため、定員を30名とします。従って応募者が定員を超えた場合は、クラスへ参加できないことがあります。
2. どのクラスも出席を重視します。一定の成果をあげるために、授業への継続的な出席が欠かせないからです。
3. 学則上、この科目は社会学部社会学科教育科目「学科選択科目（4単位）」に位置づけられています。
4. 履修登録にあたっては以下のとおり事前に**予備登録（先着順受付）**が必要です。

対 象 者 ： 03 SS生（社会学部社会学科2回生）
定　　員 ： 30名
予備登録日時 ： 3月23日（火）　9:10～15:00（11:30～12:30　昼休憩）
場　　所 ： 教務課窓口
申込方法 ： 先着順に受付決定します。教務課窓口で申込書を受け取り、必要事項を記入の上提出してください。

＜注意＞**①学生証がないと受付できないので、必ず持参してください。**
②申込みにあたっては、事前に授業時間割表で希望クラスの曜日・時限を確認し、当日クラス番号が言えるよう準備しておいてください。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学科文献演習	０１	通期	４単位	捧（ささげ）　堅　二

［演習概要・学習目標］

知的な生活の基本は《本を読む》ことである。
この演習の目的は《本を読む》ということが学生諸君の生活の有機的な一部分になることをめざしている。

授業の進め方としては、まず選択されたテーマについて、わたしの解説を聞いてもらったり、ビデオ（劇映画、ニュース、ノンフイクション映像など）を見てもらったりする。
そして、ブックガイドをする。
その後、指定された本の中から各自選択し、1200～1600字程度の短いレポートを書いて提出してもらう。

［演習計画］

前期は、まずマックス・ウェーバーの政治社会学について勉強する。それを踏まえて、ドイツのナチズムや日本の天皇制国家、そして今日の大衆民主主義について検討する。いくつかのドキュメンタリー映像や劇映画を見るつもりである。

後期は、まだ具体的に何をするか決めていない。たとえば、「共同体」の概念を軸に、「伝統」「脱伝統化」「近代化」「倫理」「世界市民」「グローバリゼーション」などをテーマに授業を進めるのもいいかも知れない。

［成績評価の方法］

出席（2/3 以下は失格）
レポート（５～１０回程度）

［教科書］

マックス・ウェーバー『職業としての政治』（岩波文庫）
前期にウェーバーの政治社会学を勉強するときに使用します。薄くて安価な本（内容は難しいが）なので全員が購入してください。

［文献］

小説から専門書まで、おすすめ本を多数あげます。テーマや話題ごとに、いろんな本をガイドしますので、たくさん読んでください。
そのほんの一部を例としてあげておきます。
ウェーバー『支配の社会学』、丸山真男『現代政治の思想と行動』、アレント『全体主義の起原』、ヒットラー『わが闘争』、牧野雅彦『共存のための技術』、ベック『世界リスク社会』、それからフランシス・フクヤマ『大崩壊の時代』、柄谷行人『倫理２１』、カルドー『新戦争論』、小説では、藤沢周平『春秋山伏記』、アレイヘム『屋根の上のバイオリン弾き』など。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学科文献演習	０２	通　期	４単位	清　水　夏　樹

［演習概要・学習目標］

習俗や流行現象をはじめとする下位文化の動向について学ぶ。
高度情報化、大衆消費社会の到来にともなう sub-cultural な変貌を扱い、とくに時代の起伏、転換点に照準し、
一．宗教ブーム
一．現代音楽の動向と変遷
一．その他流行トレンド
をとりあげる。これを主眼とするテーマに各自取り組んでもらう。購読用のテキスト以外に諸文化、思想、映画、演劇、スポーツ等、関連するジャンルの資料を通して意欲的に消化に努めること。戦後５０年史をいくつかの角度から顧みる好機でもあり、その間の世代間移行から「時代のリサイ

［演習計画］

前期
青年世代の今昔と youth culture、「聖」「俗」「遊」の価値観－三極構造とフレーム移行、大衆社会の動態的諸相 subculture におけるメディアリテラシィ、バーチャル体験とゲーム感覚、記号論的解釈。

後期
大衆文化と機械的メカニズム、流行音楽にみる時代の感受性、新旧の統合と時代のリサイクル、ほか前期の補充と各自のテーマに沿った個別指導に充てる。

［成績評価の方法］

［教科書］

講義の中で適時指示する

［参考文献］

講義中追って紹介・指示する。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会学科文献演習	03	通期	4単位	藤澤隆史

[演習概要・学習目標]

社会心理学に関する文献・論文を読み，その理論と研究技法を学ぶ．人間の社会的行動について，その法則性を探り，理解を深める．

[演習計画]

各グループの人数が同数になるように学生を割り振りふって，授業を進めていく予定です．授業中に配布する資料や指示するテキストや文献を参考にしながら，報告者のレポート，教員の説明，学生の討議などで授業を進めます．社会心理学についての専門用語を調べて発表したり，社会心理学において主要とされている研究の中から興味のあるものをまとめて発表するなどです．また，後期の後半は簡単な調査をして，まとめて発表を行なう予定です．

[成績評価の方法]

出席を含む平常点と，レポートにより評価する．

[参考文献]

授業中に適宜指示する．

[教科書]

なし

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会学科文献演習	04	通期	4単位	藤森勉

[演習概要・学習目標]

人文地理学に関する演習を行う。人文地理学は研究対象によってさまざまな分野があるが教科書として使用する本書は関西大学を中心とする研究者が大学における演習用教科書として編集したもので幅広い人文地理学の内容を理解させることができる。

[演習計画]

新訂人文地理に掲載されている20編の論文から各自関心の深いテーマを選んで解説させ討論によって内容を深めさせる。

[成績評価の方法]

授業中の発表・討論。小テストをもって評価する

[参考文献]

[教科書]

橋本征治編「人文地理の広場」 大明堂

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学科文献演習	０５	通　期	4 単位	山　内　乾　史

［演習概要・学習目標］

この文献演習では、教育の役割、学校の役割、学力低下を中心とする教育社会学についての、日本語の基本的文献を講読します。目的は社会学的なものの見方、とらえ方のトレーニングということにあります。ゼミ形式での授業ですので、順番にテーマを与えて発表して頂きますが、発表者以外の方も積極的に参加し、どしどし発言してもらいたく思います。なお、関連するビデオの鑑賞・批評も行います。

［演習計画］

読むことを考えている文献は、苅谷剛彦『なぜ教育論争は不毛なのか－学力論争を超えて－』（中公ラクレ、2003 年）、中井浩一編『論争・学力崩壊 2003』８中公ラクレ、2003 年）、廣田照幸『教育には何ができないか－教育神話の解体と再生の試み－』（春秋社、2003 年）原・山内『学力低下（仮題）』（ミネルヴァ書房、2004 年）、長尾他『「学力低下」批判』８アドバンテージ・サーバー、2002 年）、別冊宝島『小学校がたいへん！－教師達が語る「学力低下問題」の本当の事情－』（宝島社、2001 年）など。必要に応じて指示します。

［成績評価の方法］

発表内容と参加度によります。出席は評価の前提条件になります。

［教科書］

必要に応じて指示します。

［参考文献］

社会 02～

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学科文献演習	０６	通期	４単位	渡部　美穂子

［演習概要・学習目標］

就職商法といって、求人をかたって人を集め、実際は商品を売るのが目的の悪質商法がある。こういう手合いにだまされる人が案外多いが、それはどうしてだろうか。他にもいろんな悪質商法がある。自己開発セミナーと称して，「あなたの生き方を問い直しませんか」と悩みをもった人を誘う擬似宗教のたぐいもそうだ。そこには、いわゆる社会的影響という社会心理学上の諸問題が豊富に含まれている。
この演習ではテキストの講読をつうじて、上に述べたような、私たちが知らない間に影響を受けるメカニズムに関する理論の理解を学ぶことを目的とする。

［演習計画］

教科書の章にしたがって、各自が分担の章の概要について、また、授業中に指示した重要関連文献について、レジュメを作成して発表する。章立ては以下のとおりである。

1．影響力の武器　2．返報性　3．コミットメントと一貫性
4．社会的証明　5．好意　6．権威　7．希少性
8．手っとり早い影響力

［成績評価の方法］

発表内容と議論への参加の程度を考課の材料とする。

［教科書］

R. B. チャルディーニ（社会行動研究会訳）『影響力の武器 ――なぜ、人は動かされるのか』　誠信書房、1991年

［参考文献］

適宜指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会調査B（旧社会調査）	01 02	秋学期 秋学期	2単位 2単位	過　放

［講義概要・学習目標］
社会調査Aの単位取得者を対象として、質問紙調査法を中心に、小グループ単位での体験実習もまじえながら、社会調査の設計と実施方法に関する知識の実践的習得をめざす。
質問紙調査法とは、いわゆる「アンケート調査」と考えてもらってかまわないが、むろん、単純な世論調査（「はい」が何%、「いいえ」が何%）にとどまるものではない。社会学の社会調査においては、社会の中でいったいいかなる人たちの集団が、どのような意識や行動を示すのか、という社会学的な仮説の構築と検証が重要である。
この授業では、受講生同士で小グループを編成し、調査とその集計・分析にとりくむため、毎回の授業への出席のみならず、授業外の時間を使っての共同作業への参加や、仲間との協調性が強く求められる。

［講義計画］
1. 社会調査の企画・設計
2. 社会調査の実施方法
3. 問題意識の絞り込み
4. 仮説の検討
5. 質問文の作成
6. 調査票の完成
7. サンプリングの方法
8. 調査の実施手順
9. 調査票の配布と回収
10. 調査データの整理
11. データ集計の基礎
12. 統計的検定と仮説の検証
13. 分析結果の発表
14. 発表へのコメント
15. 調査報告書の書き方

［成績評価の方法］
出席状況と共同作業への参加度、個別レポートの内容などを総合して評価する。

［教科書］
大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房

［参考文献］
・白谷秀一・朴相権『実践はじめての社会調査』自治体研究社
・林知己夫編『社会調査ハンドブック』朝倉書店
・東京大学教養学部統計学教室編『人文・社会科学の統計学』東京大学出版会
ほか、授業時に指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会調査B （旧社会調査）	03 04	秋学期 秋学期	2単位 2単位	木下　栄二

［講義概要・学習目標］
社会調査Aの単位取得者を対象として、質問紙調査法を中心に、小グループ単位での体験実習もまじえながら、社会調査の設計と実施方法に関する知識の実践的習得をめざす。
質問紙調査法とは、いわゆる「アンケート調査」と考えてもらってかまわないが、むろん、単純な世論調査（「はい」が何%、「いいえ」が何%）にとどまるものではない。社会学の社会調査においては、社会の中でいったいいかなる人たちの集団が、どのような意識や行動を示すのか、という社会学的な仮説の構築と検証が重要である。
この授業では、受講生同士で小グループを編成し、調査とその集計・分析にとりくむため、毎回の授業への出席のみならず、授業外の時間を使っての共同作業への参加や、仲間との協調性が強く求められる。
なお、01生（現4回生）以上には旧カリキュラムが適用されるので、該当する学生は「社会調査A」と「社会調査B」を通年で履修しなければならない。

［講義計画］
1. 社会調査の企画・設計
2. 社会調査の実施方法
3. 問題意識の絞り込み
4. 仮説の検討
5. 質問文の作成
6. 調査票の完成
7. サンプリングの方法
8. 調査の実施手順
9. 調査票の配布と回収
10. 調査データの整理
11. データ集計の基礎
12. 統計的検定と仮説の検証
13. 分析結果の発表
14. 発表へのコメント
15. 調査報告書の書き方

［成績評価の方法］
レポート60%　筆記試験20%、出席状況と共同作業への参加度20%
（詳細は最初の授業で説明する。なお授業態度の不真面目なものは即刻除名処分とするので注意すること）

［教科書］
大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房

［参考文献］
・原純輔・海野道郎『社会調査演習』東京大学出版会
・安田三郎・原純輔『社会調査ハンドブック』有斐閣双書
・P・G・ホーエル（浅井・村上訳）『初等統計学』培風館
・青井和夫・直井優『社会調査の基礎』サイエンス社
・白谷秀一・朴相権『実践はじめての社会調査』自治体研究社
・林知己夫編『社会調査ハンドブック』朝倉書店
・東京大学教養学部統計学教室編『人文・社会科学の統計学』東京大学出版会

その他適宜指定する。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会調査B（旧社会調査）	05	秋学期	2単位	竹中英紀

［講義概要・学習目標］
社会調査Aの単位取得者を対象として、質問紙調査法を中心に、小グループ単位での体験実習もまじえながら、社会調査の設計と実施方法に関する知識の実践的習得をめざす。
質問紙調査法とは、いわゆる「アンケート調査」と考えてもらってかまわないが、むろん、単純な世論調査（「はい」が何%、「いいえ」が何%）にとどまるものではない。社会学の社会調査においては、社会の中でいったいいかなる人たちの集団が、どのような意識や行動を示すのか、という社会学的な仮説の構築と検証が重要である。
この授業では、受講生同士で小グループを編成し、調査とその集計・分析にとりくむため、毎回の授業への出席のみならず、授業外の時間を使っての共同作業への参加や、仲間との協調性が強く求められる。
なお、01生（現4回生）以上には旧カリキュラムが適用されるので、該当する学生は「社会調査A」と「社会調査B」を通年で履修しなければならない。

［講義計画］
1. 社会調査の企画・設計
2. 社会調査の実施方法
3. 問題意識の絞り込み
4. 仮説の検討
5. 質問文の作成
6. 調査票の完成
7. サンプリングの方法
8. 調査の実施手順
9. 調査票の配布と回収
10. 調査データの整理
11. データ集計の基礎
12. 統計的検定と仮説の検証
13. 分析結果の発表
14. 発表へのコメント
15. 調査報告書の書き方

［成績評価の方法］
出席状況と共同作業への参加度、個別レポートの内容などを総合して評価する。

［参考文献］
・白谷秀一・朴相権『実践はじめての社会調査』自治体研究社
・林知己夫編『社会調査ハンドブック』朝倉書店
・東京大学教養学部統計学教室編『人文・社会科学の統計学』東京大学出版会
ほか、授業時に指示する。

［教科書］
大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房
（社会調査Aと共用）

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会調査実習I（旧社会調査実習）		春学期集中	4単位	竹中英紀

［講義概要・学習目標］
この科目は「社会調査A」「社会調査B」の単位取得者を対象に開講されるものであり、少人数の演習形式によって、社会調査に関する深い知識と技法の習得をめざす。授業では、(1)過去の調査実習報告書や研究論文などの輪読・検討を通して、基本的な資料とデータの分析、量的データ解析の基礎的な手法について学ぶとともに、(2)「社会科学のための統計パッケージ」（SPSS）を活用しながら、既存データの再集計と分析に取り組みたい。また、秋学期の「社会調査実習II」に向けて、各自が社会調査の問題意識を持つことを目標とする。
なお、調査実習は講義科目とも演習科目とも異なり、正規の授業時間以外にもきわめて多くの共同学習や作業の時間を必要とするので、学生諸君には、それなりの心がまえをもって履修してもらいたい。遅刻や無断欠席、不真面目な受講態度などは履修放棄とみなし、学期途中であっても除名する。

［講義計画］
1. 実習の計画（必要な場合は実習生のグループ分け）
2. 過去の調査報告書の検討　①問題意識と仮説を学ぶ
3. 過去の調査報告書の検討　②記述統計データの読み方・まとめ方
4. 過去の調査報告書の検討　③相関関係と因果関係、疑似相関の概念
5. 研究論文の検討　①統計データの社会学的分析法
6. 研究論文の検討　②多変量解析の基礎
7. 研究論文の検討　③さまざまな計量モデルを学ぶ
8. 既存データの再集計　①SPSSの基礎
9. 既存データの再集計　②SPSSの応用
10. 既存データの再集計　③SPSSのプログラミング
11. データ分析と仮説検証　①問題意識と仮説
12. データ分析と仮説検証　②統計的検定
13. データ分析と仮説検証　③因果関係のエラボレーション
14. データ分析と仮説検証　④多変量解析の実際
15. データ分析と仮説検証　⑤分析結果のまとめ・発表

［成績評価の方法］
実習活動への参加（毎回の出席は最低条件）と、小レポートなどの提出物、発表内容、学期末レポート（400字詰め10枚程度）によって評価する。

［参考文献］
・林知己夫編『社会調査ハンドブック』（朝倉書店）
・フィッシャー『都市的体験』（未來社）
・フィッシャー『友人のあいだで暮らす』（未來社）
・グレイザー＆ストラウス『データ対話型理論の発見』（新曜社）
ほか、授業時に指示する。

［教科書］
『2003年度「社会調査実習」報告書』（桃山学院大学社会学部）
（開講時に配布する）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会調査実習II		秋学期集中	4単位	竹　中　英　紀

［講義概要・学習目標］

この科目は、「社会調査実習I」の単位取得者を対象に開講されるものであり、ひきつづき、少人数の演習形式によって、社会調査に関する深い知識と技法の習得をめざす。調査の企画から報告書の作成にまでいたる調査の全過程の体験実習は、この科目によって完結すると思っていただきたい。授業の内容は、(1) 問題意識と仮説の絞り込み、(2) 質問文・調査票の作成、(3) 調査票の配布と回収、(4) データの整理・集計・分析、(5) 分析結果のプレゼンテーション、報告書の執筆といういくつかの段階に分かれる。

なお、「社会調査実習I」と、この「実習II」では、実質上、卒業論文に匹敵する水準の論文（400字詰め30枚程度以上）を、1年に満たない期間で書き上げることが要求される。勉学への努力を惜しまない学生諸君の受講を期待する。

［講義計画］

1. 実習の計画（報告書作成までの手順）
2. 問題意識と仮説　①問題意識の絞り込み、対象者・地域の選定
3. 問題意識と仮説　②仮説の構成
4. 問題意識と仮説　③変数の操作化
5. 質問文と調査票　①質問文と選択肢のワーディング
6. 質問文と調査票　②調査票のレイアウト
7. 質問文と調査票　③プリテストと調査票の完成
8. 社会調査の実施過程　①調査対象者のサンプリング
9. 社会調査の実施過程　②調査票の配布と回収、面接技法
10. 調査データの整理と集計　①調査票のエディティングとコーディング
11. 調査データの整理と集計　②エラーチェックとデータ・クリーニング
12. 調査データの整理と集計　③単純集計とクロス集計
13. 報告書の執筆①学術論文の構成法
14. 報告書の執筆②注と参考文献
15. 報告書の執筆③図表の用い方

［成績評価の方法］

実習活動への参加（毎回の出席は最低条件）と、小レポートなどの提出物、発表内容、報告書の論文（400字詰め30枚程度以上）によって評価する。

［教科書］

『2003年度「社会調査実習」報告書』（桃山学院大学社会学部）
（「社会調査実習I」開講時に配布する）

［参考文献］

・林知己夫編『社会調査ハンドブック』（朝倉書店）
・フィッシャー『都市的体験』（未來社）
・フィッシャー『友人のあいだで暮らす』（未來社）
・グレイザー＆ストラウス『データ対話型理論の発見』（新曜社）
ほか、授業時に指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会調査特講（質的調査法入門） （旧　社会学特講（社会調査方法論））		春学期	2単位	過　放

［講義概要・学習目標］

本講義では、質的調査法の入門をめざして、質的調査法の種類と実例、とりわけ聞き取り調査の技法、参与観察法とドキュメント分析法を中心にして、それぞれの技法の特徴や調査実施上の倫理など、基礎的知識について学ぶ。調査の企画、仮説の構成、調査技法の選定と調査項目の設定、調査の実施、インタビューなどのフィールドワーク、フィールドノートの書き方、報告書の作成などについてそれぞれの調査方法について具体的に学ぶとともに体験実習を通して理解を深める。

この授業は、「社会調査実習」を履修している者、履修した者を念頭に行う。なお授業では、受講生個人を単位に、あるいる小グループを編成して、調査の実施とそのデータ分析に取り込むため、授業への出席のみならず、授業外の時間を使っての調査作業や、仲間との協調性が強く求められる。

［講義計画］

1．質的調査法に関する概説
2．聞き取り調査とその特徴
3．聞き取り調査の技法
4．聞き取り調査のデータ分析
5．インタビュー法
6．ライフヒストリーの分析
7．フィールドワークの技法
8．参与観察法の実践
9．参与観察法の進め方
10．参与観察法のデータ収集と分析
11．さまざまなドキュメント分析
12．ドキュメント分析の調査企画
13．ドキュメント分析の技法
14．ドキュメント分析のデータ収集と分析
15．事例研究

［成績評価の方法］

出席・授業の態度とレポートの結果を総合して評価する。詳細については初回の授業で説明する。

［教科書］

大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房

［参考文献］

石川淳志ほか『見えないものを見る力』八千代出版
佐藤郁哉『フィールドワークの技法』新曜社
中野卓ほか『ライフヒストリーの社会学』弘文堂
原純輔ほか『社会調査演習』東京大学出版会
ほか、授業時に指示する。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会調査特講（統計解析法入門） （旧　社会学特講（データ解析演習））		秋学期	2単位	木下　栄二

［講義概要・学習目標］

本講義では、現在の社会調査の主流をなす調査票調査によって得られたデータに対する統計的解析法の基礎知識の習得を目標とする。コンピュータの発達によって、誰でも手軽に複雑な分析を行えるようになってきたが、その結果を正しく読み解くためには、統計学や確率論に関する基礎知識とデータの特性に合わせた分析技法の習得が必須である。

ここでの主要な習得課題は、集団と集団を比較するための基本統計量、確率論の基礎、特に正規分布に対する理解、統計的推定・統計的検定の考え方、量的変数と質的変数の区分とその分析法、そして２変数間の関連の見方を超えた３変数以上の関連をみるための基礎知識などである。

授業は、「社会調査実習」を履修している者、履修した者を念頭に行う。文科系の学生にはややハードなものになるかも知れない。適宜、コンピューターも使用するが、原則としては手計算によって、統計解析の理論を身につけてもらいたいと考えている。

［講義計画］

（１）基本統計量（算術平均、分散、標準偏差、偏差値）
（２）確率論基礎①（確率の発想と二項分布）
（３）確率論基礎②（正規分布と中心極限定理）
（４）統計的推定とサンプリング理論
（５）統計的検定の理論（比率の差の検定）
（６）量的変数と質的変数（分析手法の概観）
（７）質的変数と量的変数との関連①（平均値の差の検定）
（８）質的変数と量的変数との関連②（分散分析、Ｆ検定）
（９）質的変数と質的変数との関連①（クロス表の見方と属性相関係数）
（10）質的変数と質的変数との関連②（独立性のX^2検定）
（11）質的変数と質的変数との関連③（第３変数の導入、エラボレーション）
（12）量的変数と量的変数との関連①（回帰分析の基礎）
（13）量的変数と量的変数との関連②（ピアソンの積率相関係数）
（14）量的変数と量的変数との関連③（第三変数の導入、偏相関係数）
（15）多変量解析法の概観（重回帰分析と因子分析の基礎）

［成績評価の方法］

学期末試験80％、小テスト10％、授業態度10％
（詳細は最初の授業で説明する。なお授業態度の不真面目なものは即刻除名処分とするので注意すること）

［教科書］

特に指定しないが、右の参考文献のうち2冊以上を読了しておくことが望ましい。

［参考文献］

高根正昭『創造の方法学』講談社現代新書
安田三郎・原純輔『社会調査ハンドブック』有斐閣双書
Ｐ・Ｇ・ホーエル（浅井・村上訳）『初等統計学』培風館
原純輔・海野道郎『社会調査演習』東京大学出版会
得津一郎『はじめての統計』有斐閣ブックス
大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋・永野武（編著）『社会調査へのアプローチ　論理と方法』ミネルヴァ書房

社会 02～

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会学原論		秋学期集中	4単位	宮本　孝二

［講義概要・学習目標］

社会学原論は、どのような社会現象においても成立している基本的な社会構成を体系的に明らかにすることをめざす。すなわち、社会とは何か、社会の一般的特性とは何かを、行為や相互行為から構造や変動に至る基礎概念の分析、社会学史に登場する多様な社会理論の紹介を通じて、明らかにしようとするのである。

また、社会を一般的な理論として解明することは、社会を全体的な視点から把握することに接続していかざるをえない。すなわち、マクロな変動論を媒介にして、社会学原論と現代社会論（近代化というマクロなトレンドのなかで各時点において社会を全体的に把握することをめざすという意味での）とが、統一的に把握されることになるのである。したがって、近代化に含まれる諸トレンドや現代社会の全体的構成についても解説する。

［講義計画］

1　社会学原論とは何か
2　人間の特性：意味づけと資源動員
3　社会の形成：人間社会と現代社会
4　相互行為の４つの側面
5　コミュニケーションの社会理論
6　サンクションの社会理論
7　エクスチェンジの社会理論
8　コンフリクトの社会理論
9　構造という視点
10　変動という視点
11　近代化と現代社会論
12　社会理論の諸相：現代の社会理論家たち

以上の内容を、順次約２５回で講義する

［成績評価の方法］

期末試験によって評価する。ただし、その都度指示する自由提出レポートで若干の加点を行う。

［教科書］

宮本孝二『ギデンズの社会理論』（1998年、八千代出版）
社会学原論と現代社会論の可能性を探究しているアンソニー・ギデンズの社会理論の全体像を解説したもの。

［参考文献］

その都度、適宜指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学史		春学期集中	４単位	竹内　真澄

［講義概要・学習目標］

社会学史とは社会学の歴史のことである。

だが、昔のことを昔のこととして語ってもつまらないから、受動的な解説は避けたい。目標は・・・

第一に、 現代の人間のおかれている社会状況から出発して、自分の社会的な諸相を探していきたい。家族、ジェンダー、学校、企業社会、近代世界システム、消費化、公共圏といったテーマをめぐって社会学者がどういう異なった見解を突きあわせているかをできるだけ論争的に考える。

第二に、上に見た諸相の深層にあるものを突き詰める。<現代>の表層をはぎ取ると、<近代>という深層が現れる。１８世紀以来の社会学の歩みの中で発見されたものが、いまでもなおわれわれを縛り付け、宿命化し、その抵抗の可能性とともにわれわれを再生産している。とくにスミス・マルクス・ウェーバーを中心に考えることにしよう。

これら二つのテーマをつうじて、われわれは自己が二つのものの交差点にあることに気づく。一つは、われわれが、輪切りにした社会の深層によって規定される表層を生きていること、そして、もう一つは、われわれが、縦割りにした歴史の先端に否応なく立たされていること、である。表層と先端の交差点には、絶望が希望と同じ数だけ存在する。

［講義計画］

<前半>　私たちの生活にとって最も身近な社会領域である、家族、ジェンダー、学校、近代世界システム、情報化＝消費化、公共圏といった現代的課題を一つ一つ取り上げて、それらの領域をめぐる社会学者の見解の対抗を再構成する。ここでは、パーソンズ、エンゲルス、フェミニズム、ウォーラーステイン、ドーア、ボードリアール、見田宗介、ハーバーマスなどが扱われる。

<後半>　前半の領域を踏まえると、問題の根源は<近代>とはいったい何かというところへ行き着く。<近代>についての歴史認識は、１８世紀以降、三つの立場に分化していく。１８世紀はアダム・スミス、１９世紀はカール・マルクス、２０世紀はマックス・ウェーバーによって代表される。

<前半>から<後半>へ遡ってみると、<後半>は、けっきょく、現代へつながるであろうから、こうして二つのパーツは円還することになるだろう。

［成績評価の方法］

年度末試験で評価するが、授業の進行次第でレポートを課す場合がある。

［教科書］

伊藤、大関、小林、鈴木、竹内『人間再生の社会理論』創風社

［参考文献］

Ｔ・パーソンズ『社会的行為の構造』木鐸社
Ｊ・ハーバーマス『コミュニケーション的行為の理論』未来社
内田義彦『社会認識の歩み』岩波新書
ハワード・ジン、竹内真澄訳『ソーホーのマルクス』こぶし書房

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
現代社会論		春学期集中	４単位	原　田　達

［講義概要・学習目標］

今年の講義では、ひとりの知識人を取り上げて、第二次大戦後の日本社会の文化と構造に迫りたい。

ここで取り上げる知識人とは、鶴見俊輔である。現在の学生さんにはあまり馴染みのない人かもしれない。しかし、戦後社会でこの人がはたした役割はおおきい。その影響は社会学だけでなく、文化研究、映画・まんが研究、文学研究など多岐にわたっている。また、戦後政治にたいする根本的な疑問の提示は、一時期、人びとにおおきな影響をあたえた。

この講義では、ひとりの知識人を追いかけることによって、戦後日本社会の構造と変化について学んでくれれば、と思う。

［講義計画］

まず、鶴見俊輔とはだれかから始めたい。と同時に、明治以来の日本社会の特徴について論じたい。その際、注目したいのが、「社交資本」という概念である。鶴見俊輔の「社交関係」を追いかけてみると、この国にはある時期、「文化的支配階級」とでも呼びうるような社会階層が存在していたことがわかる。この階級は、たとえばイギリスのジェントリー、ドイツの教養市民層に比べれば、薄っぺらな社会層でしかなかった。しかし、かれらが近代日本社会の基礎を作りあげたこともまた疑いない。

この講義は、鶴見俊輔を狂言回しにして、現代日本社会の成立と変化について論じる予定である。

［成績評価の方法］

試験をおこなう。思い出したようにレポートを課すかもしれない。

［教科書］

原田達『鶴見俊輔と希望の社会学』　（世界思想社）

［参考文献］

その都度指示します。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会心理学	01	通期	4単位	藤澤隆史

[講義概要・学習目標]

我々は，他者の中で，集団の中で，そして社会の中で生きている．本講義では，我々が社会や他者を，そして自己をいかに認識しているのかという社会的認知過程，我々が社会の中で他者といかに関わっているかという対人的相互作用過程，集団や社会を形成することにより，いかなる現象が生じるかという集団過程という3つの問題を社会心理学の知見をもとに概説し，我々が社会の中でいかに行動しているのかを考察する．

[講義計画]

1．社会心理学の課題と方法
2．自己
3．対人認知
4．社会的認知
5．対人関係の発展と解消
6．対人的コミュニケーション
7．態度形成と変容
8．社会的影響過程
9．集団過程
10．社会的交換
11．攻撃と援助
12．空間的行動
13．集合行動
14．人間関係と健康
15．女性と男性

[成績評価の方法]

定期試験により評価する．

[参考文献]

授業中に適宜指示する．

[教科書]

藤原武弘，高橋超編「チャートで知る社会心理学」福村出版

社会 02～

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会心理学	02	通期	4単位	渡部美穂子

[講義概要・学習目標]

私たちは他の人や集団、文化の影響を受け、また私たちの行動のあり方いかんが、他の人びとの行動にも影響を及ぼしたりしている。社会心理学とは、このように人間の行動を他の人との関わりのなかで、また、文化的営みとの関連のなかで、科学的に分析しようとする学問である。

講義では、われわれの日常生活に深く関わりのある社会心理学上のテーマを取り上げ、とくに若者に焦点を据えて人間関係、集団、文化などの問題について述べたいと思う。受講生諸君は日常生活への洞察を得て、自己や他者、異文化をみる感性を養い、社会的適応へのヒントを得ることができるものと期待している。これが本講義の目標でもある。

この目標を実現するために、前半では、社会的環境における基本的な心理過程を中心に取り上げ、後半では、他者・集団・文化との関わりにおける心理過程について考え、最後に社会現象に触れることにしたい。

[講義計画]

予定している授業内容は以下のとおりである。

なお、社会心理学は机上の空論ではなく、現象とデータが重視される科学的・実証的な学問である。このために、視覚的材料（スライド・ビデオ・OHP）を活用する。

Ⅰ．イントロダクション：(1)心理学とは？　(2) 社会心理学とは？
Ⅱ．社会的思考：　(3) 自己　(4)社会的認知　(5) 態度の形成と変容
Ⅲ．社会的影響：　(6)同調行動　(7)説得　(8) 集団のダイナミックス
Ⅳ．社会的関係：　(9) 攻撃と援助　(10)恋愛　(11)対人的コミュニケーション
(12) 集合行動　(13) 宗教と社会　(14) 健康心理学

[成績評価の方法]

時折小テストを行ったり、講義中にアンケート調査を実施したりして、それを講義の材料とする。要するに出席が重視される。

[参考文献]

高木修編　『社会心理学への招待』（有斐閣）
大橋正夫・佐々木薫編　『社会心理学を学ぶ』（有斐閣）
池上知子・遠藤由美　『グラフィック 社会心理学』（サイエンス社）

[教科書]

金児曉嗣編　『心理学事始め』（有斐閣）

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
家族社会学		通期	4単位	菰渕 緑

［講義概要・学習目標］

家族はこれまで社会の基礎単位として位置づけられてきたが、現代社会ではその家族の存在が改めて問われている。本稿では家族の変遷を歴史的な流れの中で把握し、社会と家族との関連を考える。また家族の非典型的形態を見ることによって、逆に家族の存在理由を問い直す。さらに急激な変化を経験した家族の姿を通して、家族の多様性という視点から現代家族が抱える諸問題を分析していく。

なお、家族をよりよく理解するために、背景としての社会についての考察を適宜取り入れていく。

［講義計画］

1. 家族の本質ー家族とは何か
2. 非典型的家族の存在に見る家族のあり方
3. 家族と文化
4. 家族の構造と機能
5. 家族の変遷
6. 家族における社会化とパーソナリティ
7. 家族の内部構造ー勢力構造と役割構造
8. 諸外国における家族の実態
9. 家族の将来像ー家族政策および家族福祉の視点から

［成績評価の方法］

筆記試験によって評価する

［教科書］

未定

［参考文献］

清水 由文・菰渕 緑 編『変容する世界の家族』
1999年 ナカニシヤ出版

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
都市社会学		秋学期集中	4単位	竹中英紀

［講義概要・学習目標］

現代社会において都市は、たえず新しい社会関係や集団や、その文化を生成する場となっている。よくある「都市化が人間関係を破壊する」といったたぐいのステレオタイプな見方だけでは、現代都市において実際に成立し作動している社会構造とそのメカニズムを正確にとらえることは困難であるといってよい。

都市社会学は、社会学の一分野として20世紀はじめのアメリカ合衆国において誕生した学問であり、その初期の言説は上のようなステレオタイプのまさに源泉となっているが、近年にいたって、パラダイムの根本的な問い直しが行なわれていることもまた事実である。

この授業では、以上をふまえ、都市社会学の基礎理論とその批判的継承の流れを学び、さらにその現代日本の都市への応用について考えることをめざしたい。

［講義計画］

I 都市社会学の基礎理論
1. 歴史のなかの都市
2. シカゴ学派の都市研究
3. アーバニズムの理論
4. 社会的ネットワークと下位文化

II 現代都市の社会構造
5. グローバル化と現代都市
6. 都市の社会的不平等
7. 都心とインナーエリア
8. 郊外社会の形成

III コミュニティの形成と展開
9. 都会人のパーソナリティ
10. 町内会・自治会とNPO
11. コミュニティ政策と地域社会
12. これからのコミュニティ作りについて考える

［成績評価の方法］

授業中に実施する小テスト＋レポート（それぞれ数回程度）40％、筆記試験60％の比率で評価。

［参考文献］

・C・S・フィッシャー『都市的体験』（未来社）
・松本康編『増殖するネットワーク』（ミネルヴァ書房）
・町村敬志・西澤晃彦『都市の社会学』（有斐閣）
ほか、授業時に指示する。

［教科書］

高橋勇悦監修、菊池美代志・江上渉編『21世紀の都市社会学』
（学文社、2002年）

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
文化社会学		秋学期集中	4単位	北川紀男

［講義概要・学習目標］

文化は人間にとって第二の本能であるといわれるほど、人間と文化は不可分の関係にある。それ故に、人間の社会を研究する社会学にとって、文化の研究は欠くことのできない研究課題である。最初に、文化社会学の学説史を概観し、次いで人間と文化との間に存在する根源的な関係に立ち戻って、文化の概念を尋ね、文化は社会によって制約されると同時に社会を制約するという、すぐれて社会的事象であることを明らかにする。「歌は世につれ、世は歌につれ」とか「処変われば、品変わる」とは、文化と社会の関係を巧くいいえて、社会学的にみて興味ある表現である。

以上の基礎的な考察を踏まえて、後半は、複雑多岐に分化し、目まぐるしく変転する現代分化の動向を解明するために、「大衆化」、「国際化」、「情報化」、「共生化」の視点にたって、批判的に考察をすすめてみたい。

現代文化は、複雑かつ激しく変転しており、人びとはともすれば無批判的に追従しがちであるが、この講義を通じて、現代文化を理解する自らの視座を学びとって欲しい。

［講義計画］

①イントロダクション　～社会学的認識について～
②社会学における文化の研究　～歴史と方法論～
③文化の概念　～シンボル・意味・価値～
④文化と社会規範　～規範・社会化・タブー～
⑤生活文化　～生活様式としての文化～
⑥文化と文明　～文明社会の諸問題～
⑦知識の社会学　～知識・イデオロギー・科学～
⑧大衆化と文化　～大衆文化・被操作性～
⑨国際化と文化　～民族文化・国民文化・異文化間ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ～
⑩情報化と文化　～情報化社会・ニューメディア～
⑪共生化と文化　～高齢者・障害者・ジェンダー～
⑫文化変動と社会変動

［成績評価の方法］

成績評価は、課題レポートと期末試験に基づいて総合的におこなう。

［教科書］

北川紀男『文化社会学研究』１９９９年（八千代出版）

［参考文献］

参考文献については、学期はじめに「文化社会学参考文献リスト」として配布するので必ず受け取ること。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
技術社会学（旧 産業技術論）		通期	4単位	並川宏彦

［講義概要・学習目標］

技術は人間の活動＝生産的労働をより効果的に行うために工夫され、つくり出されたものである。それはつくり出した物、道具や機械などに物化しているが、道具や機械そのものではなく、それらによって測られる一つの概念であり、本来きわめて経済的社会的なものである。人間のみが道具をつくり、それを使って色々な物を生産する。人間の歴史は道具の歴史、物づくりの歴史である。人間の存在が技術を考えていく基盤である。

科学・技術時代といわれる現在の経済社会をよく理解するためには、それを支え、影響する重要な要因の一つである技術の役割を正確に把握する必要がある。

この講義では、人類の起源と技術、生産過程と労働過程、技術の概念、科学の発展、科学と技術の関係、道具から機械へ、機械の概念、工場制度の成立、機械体系からオートメーションへ、そして、戦後日本の技術革新ついて述べ、現代技術の社会との関わりを考える。

［講義計画］

第１章．人間の起源と技術（人間の存在が技術の基盤人間の属性　物づくりが人間をつくるなど）、
第２章．生産過程・労働過程（生産の自然的・社会的側面　労働過程の３要素）、
第３章．技術の概念（学説の紹介　技術の定義）、
第４章．科学の発展（科学とは　科学と労働　科学のはじまり）、
第５章．科学と技術の発展（科学と技術、技術の社会依存性と自律性　物づくりの歴史と科学の発達）、
第６章．機械と大工業（機械制大工業勃興期の技術、機械の概念、機械体系）、
第７章．オートメーション（機械化の発展段階　オートメーションの特質、前提、技術史的意義）、
第８章．戦後日本経済と技術革新（技術革新の展開過程　技術貿易　日本技術の特質）を講義する。
第９章．現代技術と社会（家庭電化製品・自動車・情報通信機器等の社会への影響）について考える。

［成績評価の方法］

レポートの提出を課す。期末に試験をする。
試験の点数とレポートの評価で成績をつける。

［教科書］

［参考文献］

最初の授業の日に、各章ごとの参考文献を示す。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
宗教社会学		通期	4単位	清水夏樹

[講義概要・学習目標]

日本および西洋の宗教史をたどりながら、近・現代社会に占めるそのウェイトと機能を考える。明治以降の新宗教活動の一端をみ、戦後社会の病理もしくは“影の部分”を理解する手がかりとしたい。宗教にまつわる問題は、ある意味で社会学の窮極のの課題(テーマ)とさえいえる面をもつ。E・デュルケイム、M・ウェーバー等先人の業績をふまえ、また文化人類学、民俗学上の知識・事例研究にも触れながら、現実の「社会」と生身の「人間」との有機的な結びつきを問い直す姿勢を大切に講義をすすめたい。

随時プリント資料を配布、それらをもとに必要に応じ簡易テストやレポート提出を課す。欠席日数が多いと単位取得に支障をきたすことに注意のこと。

[講義計画]

前期

聖と俗、未開社会の宗教儀礼、祭りの構造と習俗基盤、修検道等伝統儀礼にみるシンボルの動態、宗教の世俗化とその逆現象、同じくその脱俗化〈再聖化〉と demonization、カリスマの発祥と変容。

後期

神仏習合にみる日本固有信仰の特徴、その歴史的基盤、日本近代化の舞台裏を担うものとしての新宗教々団、経済発展と宗教倫理との逆説的な関係、現代社会のひずみと宗教ブーム、同じく subcultural な動向にみる価値フレームとの関連。

[成績評価の方法]

[参考文献]

講義の中で紹介、指示する

[教科書]

追って随時、指示する

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
教育社会学		通期	4単位	山内乾史

[講義概要・学習目標]

本講義は、教育の世界で起きる諸問題を社会学的視点から捉えていく方法について検討することを目的とします。教育は自己完結的な閉じたシステムではなく、政治・経済他の社会システムと密接な関わりを持つシステムであり、それ故に教育の世界だけを見つめるのではなく、巨視的な分析方法が必要とされます。本講義では、欧米との比較（特にアメリカ合衆国とイギリス）を通じて、また明治維新以降の流れを歴史的に振り返ることを通じて、現代日本の教育に起きる諸問題を解説していきます。

講義は多人数になることが予想されるので、ＯＨＰやビデオによる資料提示が多くなることと思います。

[講義計画]

１．イントロダクション
２．教育社会学とは何か：日英米を比較検討していく基本的枠組みについて
３．日本における学歴社会論（１）～（３）
４．アメリカ合衆国の教育史（１）～（３）
５．イギリスの教育史（１）～（３）
６．日本における学力低下問題と改革（１）～（３）
７．アメリカ合衆国における学力低下問題と改革（１）～（３）
８．イギリスにおける学力低下問題と改革（１）～（３）
９．日本における大学改革と教育機会の変化（１）～（２）
１０．アメリカ合衆国における教育機会とマイノリティ（１）～（２）
１１．イギリスにおける大学改革（１）～（２）
１２．まとめ：日英米の教育問題と教育改革

[成績評価の方法]

成績評価は試験（75％）と授業終了時に課すレポート（25％）によります。具体的な方法については講義の時に指示します。ただし、欠席過多の学生には受講資格を認めない場合があります。

[参考文献]

原清治・山内乾史『学力低下（仮題）』ミネルヴァ書房、2004年

[教科書]

原清治・山内乾史・杉本均編『比較教育社会学のイマージュ』学文社、2004年

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
心理学	01	春学期集中	4単位	伊　藤　高　章

［講義概要・学習目標］

1　心理学の概要を理解させる。
2　乳幼児期・児童期・青年期・老年期等人間の発達段階のそれぞれの時期に特有な身体的、心理的特徴について理解させる。
3　心理学理論による人間理解とその技法の基礎について理解させる。
4　心理的援助技法の概要について理解させる。
5　社会福祉士に必要な内容について理解させるよう留意する。

［成績評価の方法］

学期中のブックレポート
学年末試験

［教科書］

馬場禮子・永井 撤　共編『ライフサイクルの臨床心理学』培風館、1997

［講義計画］

1　人間の心理学的理解
　1）欲求・動機づけと行動
　2）感情・情動
　3）感覚・知覚・認知
　4）学習・記憶・思考
　5）知能・創造性
　6）人格
　7）適応と適応異常
2　人間の成長・発達と心理
3　人間理解のための心理学理論と技法
　1）基礎理論
　　①精神分析
　　②行動分析
　2）測定と診断
　　①発達
　　②知能
　　③性格
4　心理的援助技法の概要
　1）心理療法（個別面接法・集団面接法）
　2）家族心理療法
　3）行動療法

［参考文献］

R.I.エヴァンズ
『エリクソンは語る＝　アイデンティティの心理学』
新曜社、1981

社会 02～

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
心理学	02	春学期集中	4単位	冷　水　啓　子

［講義概要・学習目標］

これから心理学を学ぼうとする人たちは，「心理学」という学問領域に対してどのようなイメージをいだいているであろうか？　近年マスコミでよく取り上げられている「犯罪心理学」，「深層心理学」，「臨床心理学」，「カウンセリング」といった類のものがイコール「心理学」である（それら以外は，たとえ人間の「心」に関わりがあろうとも「心理学」とはみなさない）という強固な先入観（あるいは偏見）にとらわれているのが大勢ではなかろうか。もちろん，それらは「心理学」のなかで重要な分野であるが，「心のしくみとはたらき」を研究する科学としての「心理学」の研究領域はそれだけではなく，きわめて広く学際的である。

わたしたちの日常的活動を例に考えてみよう。わたしたちは周囲の世界からさまざまな情報を取り入れ処理しながら，日常生活を円滑に営んでいる。しかし，普段何気なく行っている，見る，聞く，感じる，考える，覚える，理解する，判断するといった活動も，実に複雑な心のはたらきによるものであることがわかっている。このように，外界から取り入れた情報を，必要に応じて加工，貯蔵，利用するという，人間における基本的な情報処理活動について研究する「認知心理学」というのも「心理学」の一分野である。そこで，この講義では，近年の心理学研究上のさまざまな知見・成果を概観し，人間の心のしくみとはたらきについて総合的に理解していくことを目指す。

なお，授業に関連する資料は，コンピュータ，OHC，VTR，印刷物などを通じて適宜提供する。受講生の主体的・積極的な授業参加を期待している。

［成績評価の方法］

主体的・積極的な授業への出席・参加を重視する。学期末に試験を実施する。必要に応じて，簡単な実験・調査への参加やレポート提出などを求める。それらの結果に基づき総合的に評価を行う。

［教科書］

追って指示する。

［講義計画］

1．心理学とは何か？
　1）心のしくみとはたらきを知る
　2）心理学の研究方法
2．感覚と知覚
　1）感覚・知覚のしくみとはたらき
　2）見えの世界
　3）錯覚現象
3．イメージ
　1）イメージの世界
　2）イメージ・トレーニング
4．記憶
　1）記憶のしくみとはたらき
　2）日常の記憶：目撃者の証言
5．思考と言語
6．動機づけと情動
7．性格
　1）性格の類型と特性
　2）性格テスト

〔但し，授業の進捗状況によってこの計画内容を変更することがある〕

［参考文献］

福祉士養成講座編集委員会（編）『心理学』（中央法規）
金児暁嗣（編）『サイコロジー事始め』（有斐閣）
中島義明（編）『メディアに学ぶ心理学』（有斐閣）
大村彰道（編）『教育心理学Ⅰ―発達と学習指導の心理学―』（東京大学出版会）
梅本堯夫・大山 正・岡本浩一（編）『心理学―心のはたらきを知る―』（サイエンス社）
他

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
心理学	03 04	通期 通期	4単位 4単位	加納 真美

［講義概要・学習目標］

『心理学』を学びたいと考えている人に、心理学とはどのような学問なのかを理解してもらうことを目標とする。そのため、心理学全体の統合的な見取り図を示し、心理学がどのような日常の問題を、どのように明らかにしてきたかを考察していきたい。この講義では、特に進化の過程にある人間のしくみに関する解明と社会の中での人間という観点から、人間の発達と行動に関する解明を心がけたい。

［講義計画］

Ⅰ心と適応（前期）

1 心理学とは何か
2 心の進化
3 心の発達
4 ライフサイクルと青年期
5 動機づけ
6 性格
7 知能

Ⅱ心のしくみ（後期）

8 感覚
9 知覚
10 記憶
11 学習
12 脳の働き
13 社会の中の人
14 心と社会

［成績評価の方法］
期末の筆記試験、レポート、授業態度等を総合的に評価する。

［教科書］

『はじめて出会う心理学』長谷川寿一・東條正城・丹野義彦著 有斐閣アルマ

［参考文献］
・ジョージ・バターワース他著 村井潤一監訳、『発達心理学の基本を学ぶ』、ミネルヴァ書房、1997年
・尾見康博・伊藤哲司編著、『心理学におけるフィールド研究の現場』、北大路書房、 2001年
・菊池 聡・谷口高士・宮元博章編著、 『不思議現象 なぜ信じるのか、こころの科学入門』、北大路書房 1995年

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会病理学		通期	4単位	菰渕 緑

［講義概要・学習目標］
社会病理学は、社会に生じている解決困難な諸問題を分析するための学問の一つである。社会的な諸問題が生じてくる原因、過程、結果などを理論的に究明し、解決へ向けての方向性を探ることを目的としている。本講では社会病理学の発達過程をその社会的背景の解明とともに論じ、さらに代表的な社会病理学理論を新しい視点から見直す。そして改めて社会病理とは何か、病理判定の基準とは、という基本的な問題を検討していく。

［講義計画］
1. 社会病理学とは何か
2. 社会病理学の分野
3. 社会病理学研究の系譜
   ヨーロッパにおける社会病理学研究
   アメリカにおける社会病理学研究
   日本における社会病理学研究
4. 社会病理学の諸理論
   社会不適応論、疎外論、文化遅滞論、社会解体論、アノミー論
   逸脱行動論、ラベリング論など
5. 社会病理の判定基準

［成績評価の方法］
筆記試験によって評価する

［教科書］

［参考文献］
その都度、紹介する

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
産業心理学		春学期集中	４単位	西川　一廉

［講義概要・学習目標］

長引く不況の中で，いま産業社会は大きく変わりつつある。そこで働く人々は何を目的に働くのか。何を喜びとして働くのか。好むと好まざるとにかかわらず，勤労者の生活は職場（会社）を中心に営まれる。そこで起こるさまざまな出来事は，働く人々とその家族に大きく影響する。

ソフト化・サービス化，情報化，コンピュータ化，共働き化，高齢化する社会の中での仕事，職場の人間関係，技術革新と能力開発，人事制度と処遇，若年者と中高年齢者の雇用，職場のストレスとメンタルヘルス等々，職場生活は多様な問題を抱えている。人はこうした会社組織の中でどのように生きようとしているのか。さらに女性の労働力化が進む中で，仕事と家族のバランスはどのようにとられるのか。高齢化が進む中で，職場環境はどのように改善されなければならないのか。

当講義では，このようにダイナミックに変化する労働環境と，そこで働く人々について，心理学の立場から考える。

［講義計画］

勤労者の生きがい，労働時間構造の変化と労働，女性労働・家族・企業社会，働く意欲，人事管理と能力開発，職場の人間関係，産業ストレスとメンタルヘルスなど，いわゆる組織心理学的諸問題について，各種調査結果や今日的出来事を例示しながら講じる。

［成績評価の方法］

成績評価は期末試験による。

［教科書］

ＮＩＰ研究会（編）　2000　『仕事とライフスタイルの心理学』　福村出版

［参考文献］

随時，指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
人間工学概論		通　期	４単位	三戸　秀樹

［講義概要・学習目標］

人間と機械のかかわりは古い．この人間と機械の関係から発生した人間工学に関する基礎的理解を深め，今後の人間と機械の関係のあり方について言及する．近年の機械系，とくにコンピュータリゼーションの進歩にともなう，人間らしい“人間－機械”の関係が実現しつつある反面，労働場面では，非人間的な“人間－機械”の関係が観察される．この非人間的側面は，かって労働にあった「働きがい」をも失わせる要素を有しはじめている．さらに，一部では産業ストレス時代ともいわれ，真に人間中心的な視点に基づいた人間工学導入が緊要である．

単なる既存知識の習得に主眼をおくのではなく，働く人々の個々のおかれている状況・状態にたえず疑問を発しながら，「どうしてそうなのか」「どうすれば良くなるのか」を，人間工学的に考える姿勢を重視する．人間を中心にすえた視点から人間工学の基本を学びとって欲しい．なお，文科系受講生へ配慮して，数式をほとんど用いないで講じる工夫をしている．

［講義計画］

<前　期>

(1)はじめに
　人間工学の定義，労働態様の変化，

(2)人間特性
　生体次元，感覚入力系，覚醒水準，生体リズム，反応特性，性差，
　疲労，蓄積性疲労，

<後　期>

(3)人間と機械
　マン・マシン・インタフェース，頚肩腕障害，振動障害，ＶＤＴ作業，
　テクノストレス，

(4)応用人間工学
　立ち作業，障害者，二次的障害，高齢化，安全人間工学，交通科学，
　福祉人間工学，

(5)労働の快適化
　労働の人間化，ゆとり，人間工学専門家資格，

［成績評価の方法］

テストとレポートを予定．

［教科書］

テキストは使用しない．
プリントを配布します．

［参考文献］

労働と健康の科学研究会(編)「労働と健康の科学」(労働経済社)
三戸秀樹ほか(著)「安全の行動科学」(学文社)
千田忠男ほか(著)「労働科学論入門」(北大路書房)
井上正康，倉恒弘彦，渡辺恭良(編)「疲労の科学」(講談社)

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
労働経済論		通　期	4単位	大　西　祥　惠

［講義概要・学習目標］

これから大学を卒業し、仕事をすることになる人にとって、一番の関心は採用に関することかもしれません。しかし、使用後の昇進・昇給、そして退職といった仕事にまつわるイベントがどのように決定されているかについてこそ興味を持って欲しいと思います。この講義は大卒の雇用管理を中心に進めていきます。

現在の日本の雇用管理、なかでも報酬に関する側面は激変しており、今後の変化に対応するためにも諸外国の状況も含めて理解することが学習する上での目標となります。

［講義計画］

春学期は、仕事を通じてキャリア形成や報酬管理がどのように行われいるのか、大企業ではたらく男性のキャリアを、日本と外国の比較を通じてあきらかにしていきます。

秋学期には、中小企業、女性、中高年といった、様々なグループの特質に話を広げていきます。

詳しい講義計画はホームページに記載します。

http://www.geocities.co.jp/CollegeLife-Lounge/7868/momo/2004.html

（社会学部の「関連リンク」からアクセスできます）

［成績評価の方法］

試験、授業中に行う小テスト、および出席態度。

［教科書］

『仕事の経済学　第２版』

小池和男著、東洋経済新報社、1999年(3200円)

教科書は、毎回授業のときに持ってきて下さい。

［参考文献］

講義中に指示します。

社会 02～

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会政策総論		通　期	4単位	大　西　祥　惠

［講義概要・学習目標］

現在の社会では働くことと、生活のバランスをとることが重要な課題となっています。そこで、社会政策を学ぶにあたっては、このバランスを取るための視点を持ちながら、まず雇用の側面を取り上げ、働く上では欠かせない法規制がどのように出来てきたのか、その背景を含めて解説します。次に、社会保障の側面、例えば医療や年金といった日々の生活を支える社会の仕組みを学びます。

ただし、現代の社会制度がどのように成り立っているのかを知るだけでなく、それがどのように形成されてきたのかについても深く考察することが学習の目標となるでしょう。

［講義計画］

講義は、春学期には雇用をテーマにします。労働基準法など、働く人を取り巻く法律について主に勉強します。

秋学期は、社会保障をテーマに、医療、年金、公的扶助をとりあげます。

なお、詳しい講義計画はホームページに記載します。

http://www.geocities.co.jp/CollegeLife-Lounge/7868/momo/2004.html

（社会学部の「関連リンク」からアクセスできます）

［成績評価の方法］

試験、授業中に行う小テスト、および出席態度。

［教科書］

『社会政策を学ぶ人のために』

玉井金五、大森真紀編、世界思想社、 2000年(2100円)

教科書は、毎回授業のときに持ってきて下さい。

［参考文献］

講義中に指示します。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
コミュニケーション論		秋学期集中	4単位	西川　一廉

［講義概要・学習目標］

人間は一人では生きてゆけない。複数の人が寄り合ってさまざまな集団，社会を構成し，その中で生きている。人間とはまさに「人と人の関係」の中に生きる存在である。そこで人と人をつなぐもの，それがコミュニケーションである。しかしコミュニケーションについて考えるには，他者より先に，まず自分が自分をどのように認知しているかが問題になる。その上で，他者との関係が浮上する。またコミュニケーションはことばに限らない。「目は口ほどにものをいい」などといわれるが，身振り，手振りから始まって顔面表情や視線など，いわゆるノンバーバル・コミュニケーションの方がよく用いられる。沈黙が語るところは奥深い。さらに話すこともさることながら，聞くことの重要性を知らなければならない。

当講義では，個人，対人文脈，そして集団文脈でのコミュニケーションについて，心理学の立場から考える。したがって心理学的コミュニケーション論，あるいは社会心理学的コミュニケーション論である。

［講義計画］

自己概念，知覚過程，自己開示と自己呈示，スピーキングとリスニング，対人相互作用と対人魅力，バーバル／ノンバーバル・コミュニケーションなど，日常の具体的出来事を取り上げながら，また各種実習によって自己理解をはかりながら，コミュニケーションの基本について考える。

さらにコミュニケーションを通してなされるリーダーシップや説得（態度変容），あるいは小集団における人間関係のダイナミクスについても考える。

あくまでも心理学に軸足をおいたコミュニケーション論あるいは人間関係論である。

［成績評価の方法］

成績評価は期末試験による。

［教科書］

西川一廉・小牧一裕著　2002　『コミュニケーションプロセス』　二瓶社

［参考文献］

随時，指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
マス・コミュニケーション論Ⅰ		秋学期集中	4単位	中　村　秀　之

［講義概要・学習目標］

20世紀におけるマス・メディアの体制が成立するのは、消費社会が発展する1920年代から各国で総力戦体制が確立する1930年代の後半にかけてでした。「マス・メディア」という言葉は広告の世界で生まれ、「マス・コミュニケーション」という用語は戦争プロパガンダとともに定着しました。その後のテレビの普及によっていっそう強化されたこの体制は、しかし、大量生産・大量消費という経済体制にかげりが見え、冷戦という政治体制が幕を閉じる1980年代後半以後、大きく変貌します。さらに、インターネットに代表されるデジタル・テクノロジーの発展やグローバル化のただなかで変わりつつあるマス・メディアとマス・コミュニケーションの現在を理解するためには、マス・メディアの20世紀的体制についての歴史的認識を深めることが不可欠です。

［講義計画］

前史　19世紀と新聞の変貌。
20世紀マス・メディア体制の形成
　1920年代における消費社会の成立と広告の発展。
　1930年代における政治的公共圏とラジオ。
　映画はどのような役割をはたしたか。
20世紀マス・メディア体制の確立。
　第二次世界大戦と「マス・コミュニケーション」の誕生。
　テレビの普及と戦後の国際体制。
　1950年代とは何か。
　テレビ的世界の確立。
20世紀マス・メディア体制の危機
「マス・メディア」とは何か。

（以上の大まかな構成は予定です。変更の可能性はあります）

［成績評価の方法］

中間レポートと学期末試験によって評価します。

［教科書］

佐藤卓己（著）『現代メディア史』（岩波書店、1998年）
その他、プリントを適宜配布します。

［参考文献］

授業中に適宜指示します。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
マス・コミュニケーション論Ⅱ		秋学期集中	4 単位	津金澤　聡　廣

[講義概要・学習目標]

我々は、日々、新聞・雑誌を読み、テレビ・ラジオを視聴したり、他の様々なメディア文化に接触して暮らしている。そして、それらの情報摂取をとおして、いわばその時代の“常識”や社会風俗を吸収している事が多いが、そもそも、マス・コミュニケーションとは何なのか、マスメディアは我々の生活にとってどんな社会的役割を果たしているのか、を改めて考え直してみたい。あるいは、マス・コミュニケーションを媒介するマス・メディアのあり方はこれでよいのか、何が問題なのかを、共に考え、検討したいと思う。

[講義計画]

以下の各分野について概説を行う。

1. ジャーナリズム∧マス・メディア∧マス・コミュニケーションとは何か。
2. 新聞∧テレビなど マス・メディア批判の系譜（メディア・リテラシーの観点）
3. マス・メディアをめぐる法的諸問題
   (a) 放送法についての論点
   (b) 新聞編集に関する法規
   (c) マス・メディアとプライバシーの権利
   (d) 有名人・広告 宣伝・パブリシティー
4. マス・メディアをめぐる社会心理や生活文化の問題化
5. 「高度情報化」現象の進展とマス・メディア
   ― マス・コミュニケーション発達史との関連で ―

[成績評価の方法]

平常点（レポート提出等）と学期末試験による総合評価。

[教科書]

津金澤聡廣・田宮武　著
『テレビ放送への提言』
ミネルヴァ書房、１９９９年

[参考文献]

その都度指示する。（文献多数）

社会 02～

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
日本文化論（旧日本文化研究－文学）		秋学期集中	4単位	深　澤　　徹

[講義概要・学習目標]

ナショナリズムには様々な側面から論じられるが、そのもっともソフトな形態として「文化ナショナリズム」がある。近代社会においては、日本に限らず、文化を通してナショナリズムを喚起し、補強していくということがなされるのだ。本講義では、その「文化としての日本主義」について、様々な歴史過程のなかで、それが果たした役割について論ずる。

扱う対象は主に戦後の日本社会で行われた「日本文化」についての様々な言説（いわゆる日本文化論）だが、前近代（江戸・中世・古代）へと適宜時代を遡らせて、世界でもまれに見る完璧な「国民国家」が創出されていく過程をたどることになるだろう。

[講義計画]

1. 自己言及について
2. 『菊と刀』の前と後
3. 象徴天皇制の歴史文化的起源

[成績評価の方法]

２度行う試験の成績と、出席状況とを合わせて評価する。

[教科書]

深沢徹著『自己言及テキストの系譜学』（森話社・２００２）

[参考文献]

南博著『日本人論－明治から今日まで－』（岩波・１９９４）
青木保『日本文化論の変容』（中央公論・１９９０）
吉野耕作『文化ナショナリズムの社会学』（名大出版・１９９７）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
キリスト教学 （旧キリスト教概論）		秋学期集中	４単位	滝　澤　武　人

［講義概要・学習目標］

「新約聖書」の中には２７のさまざまな文書が含まれています。それらはいずれも人類全体の大いなる知的遺産であり、今でもなお文学・歴史・思想・宗教・芸術などに新鮮な光を投げかけています。この講義の目標は、その中の一つである「マルコ福音書」を読みとおすことにあります。わずか４０頁ほどの分量ですが、そこにはさまざまな現代的問題が含まれています。したがって、それをしっかりと読みとおすだけでも、かなりの教養を獲得することができるでしょう。

マルコ福音書は最初に書かれた福音書であり、「イエスのように」生きようと懸命に呼びかけています。アッシジのフランシスコ、ザビエル、マザー・テレサらもまさにイエスのように生きようとしました。特に、教育・社会福祉・人権・ボランティアなどに関心をいだく学生諸君の熱心な受講に期待しています。

「福音書」とはいわば一つの「文学」です。その「研究」には「信仰」の有無などは全く関係なく、誰でも自由に受講することができます。

［講義計画］

「マルコ福音書」のテキストを最初から最後まで読みとおすこと、それがこの講義のすべてです。

［成績評価の方法］

試験（50点）・レポート（20点）・平常点（30点）の予定。
第１回目の授業時間に公表します。

［教科書］

新共同訳『新約聖書』（日本聖書協会）

テキストを自分自身で読むことが中心課題です。必ず自分の聖書を準備して、毎時間持参してください。

［参考文献］

滝澤武人『人間イエス』（講談社現代新書）
〃　『マルコの世界』（日本キリスト教団出版局）
〃　『福音書作家マルコの思想』（新教出版社）
田川建三『原始キリスト教史の一断面』（勁草書房）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
環境問題概論		秋学期集中	４単位	巖　　圭　介

［講義概要・学習目標］

環境問題に関するニュースがマスメディアに流れない日はない。ダイオキシン、環境ホルモンといった、人体に悪影響があるとされる人工化学物質の検出、シックハウス症候群やアレルギー、家庭ゴミや産業廃棄物の処理機能の限界、リサイクル、省エネルギー、環境に優しい製品、水や大気の汚染、オゾンホール、地球温暖化。 あふれかえる情報はかえって市民の感覚をマヒさせ、センセーショナリズムと虚無、そして不安に乗じた似非（えせ）科学をはびこらせる。

今必要とされるのは、上滑りなマスコミの情報に惑わされないための正しい基礎知識と、いたずらに不安を増幅させられないための基本的なものの考え方である。この授業では現在の主要な環境問題についての基礎的な理解を深め、環境意識を高めてもらいつつ、環境に関する情報の洪水の中を泳ぎ抜く力をつけてもらうことを目的とする。

［講義計画］

時事問題も取り入れながら、おおむね以下のようなテーマに沿って進行する（順序は変更の可能性あり）。

・あふれるゴミ
・汚される地球　－人工化学物質汚染－
　DDT・PCB、ダイオキシン、環境ホルモン
・破壊される地球システム
　酸性雨、オゾン層破壊、地球温暖化
・砂漠化する大地
・水の危機
・エネルギー問題

［成績評価の方法］

テーマの区切りごとに課すイン・クラス・レポート（授業時間中に書く短いレポート）や小テスト、および期末試験により判定する
（詳細は初回講義にて説明）

［教科書］

とくになし

［参考文献］

遠山益　『人間環境学』　裳華房　2001
石弘之　『地球環境報告Ⅱ』　岩波新書　1998
安井至　『市民のための環境学入門』
　　丸善ライブラリー　1998

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
科学思想史		春学期集中	4単位	松 永 俊 男

［講義概要・学習目標］

科学とキリスト教の関係に焦点を絞って講義する。一般に、科学と宗教は対立すると思われているが、それは間違いである。

17世紀に成立した西洋近代科学は、神に由来する自然の秩序を見いだすことを目的にしていた。科学研究はキリスト教に奉仕するものだった。ようやく19世紀になって、科学は宗教から分離、独立していった。

講義では、ガリレオ、ニュートン、あるいはダーウィンらの科学がキリスト教信仰と結びついていたことを明らかにし、それにもかかわらず、なぜ、科学と宗教が対立すると思われているのかについて考察する。

［講義計画］

1．宇宙観の変遷
2．コペルニクスの信仰と科学
3．ガリレオの信仰と科学
4．ニュートンの信仰と科学
5．地球の歴史と『創世記』
6．ダーウィンの信仰と科学
7．進化論とキリスト教
8．科学と宗教の闘争史観の成立
9．科学と宗教の闘争史観の崩壊

［成績評価の方法］

原則として、毎回の授業の最後に小テストを実施し、その総合によって評価する。したがって、出席率の悪い場合は、自動的に不合格となる。また、出席率が良くても、小テストがいつも劣悪な場合も不合格となる。

［参考文献］

松永俊男『ダーウィンの時代－科学と宗教』名古屋大学出版会

［教科書］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学特講 食の社会学		春学期	2単位	清　水　由　文

［講義概要・学習目標］

食は衣と住と関連するありふれた日常生活での行動です。つまりわれわれは食べることを抜きにして生きることができないのです。しかしこの当たり前である「食」がなかなか複雑で捉えにくいのです。これまであまり社会学では「食」がテーマに取り上げられませんでした。最近欧米で社会学の１分野となりつつあります。われわれは「食」にどうアプローチすることができるのでしょうか。これまでの日本の食生活は家庭で調理し家族でいっしょに食事をするという風景が一般的でした。しかしそれは１９７０年以降の食の近代化で大きく変化しました。いわゆる食の外部化が大きな影響を与えたのです。本講義では日本におけるそのような食の変化を中心に考えてみたいと思います。

［講義計画］

1．　食の社会学のアプローチ
① 構造機能主義アプローチ
② 構造主義アプローチ
③ ポスト構造主義アプローチ
2．　食と文化との関連性
3．　食生活の成熟とフードシステム
4．　食の近代化
① ファーストフードとマクドナルド化
② マクドナルドの形成と発展
5．　家族の変化と食生活
6．　食の外部化―内食、中食、外食との関連―
7．　スローフード運動と食
8．　食の安全性について
① 食関連の事件
② 食の安心とトレーサビイリティ
ビデオを利用して授業を進めたい思います

［成績評価の方法］

定期試験（８０％）と授業中の小レポート（２０％）による総合評価

［参考文献］

適宜指示する

［教科書］

なし

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会福祉援助技術現場実習Ⅰ	01 02 03 04 05 06	通期 通期 通期 通期 通期 通期	2単位 2単位 2単位 2単位 2単位 2単位	〈春〉石田易司〈秋〉松端克文 伊藤高章 上野谷加代子 〈春〉郭麗月〈秋〉小西加保留 坪山孝 黒田隆之

［講義概要・学習目標］

1　社会福祉の現場体験を通して社会福祉専門職（社会福祉士）として仕事をするうえで必要な「心構え」、「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」の内容の理解を深める。
2　「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」を実際に活用し、介護を必要とする老人や障害者等に対する“相談援助業務”に必要となる資質・能力技術を習得する。
3　職業倫理を身につけ、福祉専門職としての自覚にもとづいた態度・行動ができるようにする。
4　具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
5　関連分野の専門職との連携のあり方や共同して業務を進行していくうえでの具体的内容・方法を理解する。

［講義計画］

1　実習オリエンテーション
2　視聴覚学習
3　社会福祉現場で働く社会福祉士からの講話
4　現場体験学習
5　見学実習
6　見学実習記録に基づくレポートの作成
7　全体総括

［成績評価の方法］

・出席重視
・レポート　　等で総合的評価

［参考文献］

［教科書］

授業時指定する。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会福祉援助技術現場実習Ⅱ	01 02 03 04 05 06 07 08 09 10	通期 通期 通期 通期 通期 通期 通期 通期 通期 通期	2単位 2単位 2単位 2単位 2単位 2単位 2単位 2単位 2単位 2単位	荒川輝男 川東光子 阪野学 坂本光哉 田中信行 淡野勝也 西浦太一 安原佳子 山本晃 黒田隆之

［講義概要・学習目標］

1　社会福祉の現場体験を通して社会福祉専門職（社会福祉士）として仕事をするうえで必要な「心構え」、「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」の内容の理解を深める。
2　「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」を実際に活用し、介護を必要とする老人や障害者等に対する“相談援助業務”に必要となる資質・能力技術を習得する。
3　職業倫理を身につけ、福祉専門職としての自覚にもとづいた態度・行動ができるようにする。
4　具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
5　関連分野の専門職との連携のあり方や共同して業務を進行していくうえでの具体的内容・方法を理解する。

［講義計画］

1　配属実習オリエンテーション
2　専門援助技術実技指導
3　面接実技指導
4　記録実技指導
5　評価・効果測定実技指導
6　配属実習
7　実習記録に基づく実習の総括レポートの作成
8　レポートに基づく個別指導
9　全体総括会

［成績評価の方法］

全出席（学内・学外）が条件であり、実習ノート、実習レポート、実習研究報告・総括会、実習先評価を総合的に判断し、評価する。

［参考文献］

［教科書］

授業時指定する。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会福祉原論		春学期集中	4 単位	松本眞一

[講義概要・学習目標]

[講義概要・学習目標]

1 現代社会における社会福祉の理念と意義について事例や演習形式等を活用し理解させる。
2 社会福祉の対象と援助の形態及び方法について理解させる。
3 社会福祉サービス体系と利用者保護制度の仕組みの概要について理解させる。
4 社会福祉の専門性と倫理について理解させる。
5 社会福祉士及び介護福祉士法の意義と内容について理解させる。
6 社会福祉の法体系、実施体制及び財政全体の概要について理解させる。
7 社会福祉をめぐる我が国及び諸外国の動向について理解させる。

[講義計画]

[講義計画]

1 現代社会と社会福祉
　1）社会福祉の理念（人権尊重、権利擁護、自立支援等）とその発達
　2）概念と範囲
　3）役割と意義
2 社会福祉対象の把握方法
3 社会福祉援助の具体的な形態と方法
4 社会福祉援助活動における専門性と倫理
　1）専門性と専門職の内容
　2）職業観及び勤労観
　3）保健・医療等関連分野の専門職との連携のあり方
　4）社会福祉援助活動と倫理
5 社会福祉士及び介護福祉士法の意義と内容
6 社会福祉関係法制と実施体制及び財政の概要
　1）社会福祉事業法・福祉六法及び関連法規の内容及び相互関係
　2）社会福祉の実施体制
　3）社会福祉の財政と費用負担
　4）社会保障制度
7 社会福祉をめぐる我が国及び諸外国の動向

[成績評価の方法]

春学期終了時点で定期試験を実施して成績評価を行う。また、出席点も加味される。

[参考文献]

福祉士養成講座編集委員会（編）
『社会福祉士養成講座 第1巻 社会福祉原論』（中央法規出版）

[教科書]

松本眞一（編著）『現代社会福祉論』（ミネルヴァ書房）— 2001年改訂版 —

福祉 02～

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会福祉援助技術論Ⅰ ※ 第2年次の「社会福祉援助技術論Ⅱ」の双方を履修して、「社会福祉援助技術論（8単位）」認定。		通期	——	＜春学期＞石田易司 ＜秋学期＞小西加保留

[講義概要・学習目標]

この授業を2年間継続して履修し、以下の目標を達成する。

1. 基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係形成を図るための方法について理解させる。
2. 人権尊重、権利擁護、自立支援等の観点を踏まえた社会福祉サービスと援助活動の関係について、理解させる。
3. 福祉専門職と専門援助技術の関係について理解させる。
4. 社会福祉援助活動の展開過程を重視しながら、その目的・価値・原則及び体系とそこにおける共通課題について理解させる。
5. 社会福祉援助活動における専門技術の体系について理解させる。
6. 社会福祉援助技術に由来する倫理について理解させる。

[講義計画]

1. 社会福祉サービスと援助活動の関係
2. 福祉専門職と専門援助技術の関係
3. 専門援助技術の歴史的展開
4. 社会福祉援助活動の目的・価値・原則及び諸過程と共通課題
　1）社会福祉援助活動の目的と価値
　2）社会福祉援助活動の原則（人権尊重・権利擁護・自立支援等を含む）
　3）社会福祉援助活動の展開過程
　　①援助開始時の面接（インテーク）と事前評価（アセスメント）
　　②援助計画の作成
　　③援助活動の実施
　　④援助活動の評価
　4）社会福祉援助活動の共通課題
　　①契約・介入・課題の意義と方法
　　②面接の意義と方法
　　③記録の意義と方法
　　④評価の意義と方法
　　⑤専門職相互による助言協力（スーパービジョン）の意義と方法
　　⑥個別事象の継続的援助（ケースマネジメント）の意義と方法
5. 専門援助技術の体系及び内容
　1）直接援助技術
　　①個別援助技術（ケースワーク）
　　②集団援助技術（グループワーク）
　2）間接援助技術
　　①地域援助技術（コミュニティワーク）の理論と技法
　　イ 地域援助技術の概念と基本的性格
　　ロ 地域社会の組織化
　　ハ 地域援助技術
　　ニ 社会活動法
　　②社会福祉調査法の理論と技術
　　イ 社会福祉調査の基本的性格と類型
　　ロ 統計調査法における調査技術
　　ハ 事例調査における調査技術
　　③社会福祉の運営管理（ソーシャル・アドミニストレーション）と社会福祉計画の技術
　3）その他の関連専門援助技術（介護保険法における居宅サービス計画及び施設サービス計画を含む）
6. 社会福祉援助活動の場と専門援助技術
7. 専門援助技術と倫理
8. 専門援助技術の統合化とチームにおける対応
9. 専門援助技術をめぐる我が国及び諸外国の動向

[成績評価の方法]

＜春学期＞ 出席とレポート
＜秋学期＞ 出席状況、学期末試験による

[参考文献]

＜春学期＞ 『新しいグループワーク』（YMCA同盟）
『はじめて学ぶグループワーク』（ミネルヴァ書房）
＜秋学期＞ 大塚達雄他（編著）
『ソーシャル・ケースワーク論　社会福祉実践の基礎』（ミネルヴァ書房）
バイスティック（著）『ケースワークの原則』（誠信書房）
北島英治他（編）『ソーシャルワーク実践の基礎理論』（有斐閣）

[教科書]

＜春学期＞ 『Camping for All』（エルピス社）
『さかさまの星座』（オモドック）
＜秋学期＞ 北島英治・白澤政和・米本秀仁（編著）
『社会福祉援助技術論（上）』（ミネルヴァ書房）

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会福祉援助技術論Ⅱ	春学期集中	通期	8単位	小山　隆

［講義概要・学習目標］

1　社会福祉援助技術論Ⅰでの体系的学習を基礎として、社会福祉援助技術の実際について学ぶ

2　個別援助技術、集団援助技術、地域援助技術などのそれぞれについて学ぶとともに、それらの技術を地域で統合的に活用することについて学ぶ

3　その際には、なるべく具体的な事例を素材として、将来現場で活用できることを目指して学ぶ

4　伝統的な社会福祉援助技術ついて学ぶとともに、最新の技術についても先取的に学ぶ

［講義計画］

1　社会福祉援助技術の適用範囲と対象分野
2　個別援助技術の展開過程
3　集団援助技術の展開過程
4　地域援助技術の理論と技術
5　社会福祉調査法の理論と技術
6　社会福祉計画の理論と技術
7　社会福祉の運営管理
8　社会活動法の理論と技術
9　ケアマネジメントによる直接援助
10　記録とスーパービジョン
11　効果測定と評価
12　まとめと振り返り

［成績評価の方法］
出席４割
定期考査４割
その他（小レポート等）２割

［教科書］

なし。

［参考文献］

必要に応じて紹介する。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
家族福祉論		通期	4単位	梓川　一

［講義概要・学習目標］

1. 社会福祉の原点をおさえながら、人間の理解や家族の理解を現実的に検討する。社会福祉と家族、家族の幸せ、社会環境と家族、家族における価値に重点を置く。

2. 講義は毎回テーマを設定し、教員と学生のコミュニケーションを通じて進めていくため、主体的な参加を前提条件とする。

［講義計画］
1. 家族とは　家族の幸せとは
2. 結婚とは　子育てとは
3. 社会問題と社会福祉問題
4. 環境と人間と家族（学校、職場、施設）
5. 環境と人間と家族（地域社会、家族と家族）
6. 制度・サービスと家族
7. 家族の歴史と日本の事情（子育て不安、虐待、非行、介護）
8. 大人と子どもの違い
9. 家族内の喧嘩の意味
10. 家族の思い出のふりかえり
11. ターミナルケアと家族

［成績評価の方法］
1. 積極的・主体的な参加姿勢
2. 講義中のレポート
3. レポート（テーマは講義中に発表する）
4. 上記の総合評価（ただし、１は大前提とする）

［教科書］

なし

［参考文献］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
地域福祉論		春学期集中	４単位	上野谷 加代子

［講義概要・学習目標］

1　地域福祉の理念と内容について理解させる。
2　地域福祉計画の意義と内容、地域福祉の推進方法について理解させる。
3　地域福祉の現状について理解させる。

［成績評価の方法］

出席、レポート、試験等を総合的に評価する。

［教科書］

『地域福祉論』　（新・社会福祉学習双書2004　全国社会福祉協議会）

［講義計画］

1　現代社会におけるコミュニティと地域福祉
2　現代社会と地域福祉
　1）地域福祉理念の発達
　2）概念と範囲
　3）役割と意義
3　地域福祉の構成
4　地域福祉の推進方法
　1）推進の基本的な考え方
　2）地域福祉計画の意義と内容
　3）市町村と社会福祉協議会の役割と住民参加の意義
　4）サービス提供組織とその運営方法
　5）人材の構成及びその動員方法
　6）財源の構成とその調達の方法
　7）地域福祉推進の具体的な組織、団体、専門職及びその連帯のあり方
5　地域福祉の現状

［参考文献］

福祉 02～

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
医学一般		秋学期集中	４単位	郭　麗月

［講義概要・学習目標］

1　人体の基本的な構造や機能について理解させる。
2　臨床医学の各分野の概要について理解させる。
3　医学的リハビリテーションの概要について理解させる。
4　現代社会の代表的な疾患について理解させる。
5　公衆衛生の概要を理解させる。
6　保健医療対策の概要を理解させる。
7　医事法制と保健・医療機関及び専門職について理解させる。
8　社会福祉士に必要な内容について理解させるよう留意する。

［成績評価の方法］

レポート、定期試験の成績で評価する。

［教科書］

（福祉士養成講座編集委員会編）
『社会福祉士養成講座１３　「医学一般」』　（中央法規）

［講義計画］

1　人体の構造・機能
2　一般臨床医学（内科、外科、整形外科、神経・精神科等）の概要
3　医学的リハビリテーションの概要
4　現代社会と疾病
　1）がん、生活習慣病
　2）各種感染症
　3）神経・精神疾患
　4）先天性疾患
　5）難病
　6）その他
5　公衆衛生の現状
　1）人口動態
　2）疾病と受療状況
　3）医療関係者
　4）医療施設
6　保健医療対策の現状
7　医事法制と保健・医療機関及び専門職
　1）医療法、医師法、保健婦助産婦看護婦法等、医事法制の概要
　2）保健・医療機関、専門職と福祉専門職の連携のあり方

［参考文献］

適時紹介する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会福祉援助技術演習Ⅰ	０１	通　期	——	上野谷　加代子

［講義概要・学習目標］

1　社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。
2　学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
3　演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

［成績評価の方法］

授業、課題に対する参加状況（出席率、とりくみの姿勢）、レポート等により、総合的に評価する。

［教科書］

授業時に提示する。

［講義計画］

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。
さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

1　実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
2　実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

［参考文献］

授業時に適宜紹介する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会福祉援助技術演習Ⅰ	０２	通　期	——	大　西　雅　裕

［講義概要・学習目標］

1　社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。
2　学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
3　演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

［成績評価の方法］

出席、課題レポートにより評価する。

［教科書］

対人援助実践研究会（編）
『７７のワークで学ぶ　「対人援助ワークブック」』
（久美株式会社）

［講義計画］

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。
さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

1　実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
2　実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

［参考文献］

適宜授業にて紹介する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会福祉援助技術演習Ⅰ	０３	通　期	――	小西　加保留

［講義概要・学習目標］

1　社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。
2　学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
3　演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

［成績評価の方法］

出席を重視し、課題への参加状況、レポートなどによって、総合的に判断する。

［教科書］

授業時に配布する。

［講義計画］

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。
さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

1　実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
2　実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

［参考文献］

適宜紹介する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会福祉援助技術演習Ⅰ	０４	通　期	――	黒　田　隆　之

［講義概要・学習目標］

1　社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。
2　学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
3　演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

［成績評価の方法］

出席、プレゼンテーション、レポート等により総合的に評価する。

［教科書］

授業時に提示する

［講義計画］

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。
さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

1　実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
2　実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

［参考文献］

授業時に提示する